

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	音響芸術科 音響芸術コース	2019年度	1年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門応用	メディアコミュニケーションA	天野 龍洋	2単位 72時間

【授業の到達目標及びテーマ】

業界では主流に使用されている音楽編集・録音ソフト「Protools」の基礎から応用を学ぶ。
また、パソコンの初期設定や基本操作も身につける。

【講義概要】

JAPRS認定Protools技術認定試験の受験を視野に入れ、基本基礎から応用までを年間で習得していく。

回	授業計画及び学習内容
1	セッションを作成 サンプリング周波数とBit数
2	トラックを作成 レベルと調整
3	編集の流れ
4	音楽編集(1)
5	音楽編集(2)
6	DTMとは
7	打ち込みリズム
8	打ち込みメロディー
9	作曲にチャレンジ(1)
10	作曲にチャレンジ(2)
11	作曲にチャレンジ(3)
12	中間制作
13	中間制作
14	中間制作
15	プレビュー
16	直し
17	講評
18	前期おさらい
19	プラグインの種類
20	空間系のプラグイン
21	コンプレッサーのプラグイン
22	その他プラグイン
23	MIX作業について
24	音楽MIX(1)
25	音楽MIX(2)
26	マスタリングについて
27	音楽マスタリング(1)
28	音楽マスタリング(2)
29	Protoolsショートカット(1)
30	Protoolsショートカット(2)
31	Protoolsショートカット(3)
32	LEとHDの違い
33	HDを操作
34	後期課題
35	プレビュー
36	講評

【成績評価方法】

100点満点の内、課題評価を50点、授業の参加意欲から50点の成績評価を行う
S90～100点 A80～89 B70～79点 C60～69点 D59点以下は不合格

【授業の特徴・形式と教員紹介】

ProtoolsのLEとHDの違いを理解しつつ、受講者全員がしっかりと力を付け職業人を目指す。現役エンジニアの講師から学びます。普段は録音エンジニアとして、スタジオではMA、音楽ではライブ録音など幅広く活躍されております。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	音響芸術科 音響芸術コース	2019年度	1年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門応用	応用実習Ⅰ	武田 純 浜田 春菜子	3単位 108時間

【授業の到達目標及びテーマ】

他分野からの視点で授業を展開することで、将来の目指す幅を広げることや出来ることのスキルを増やす。

【講義概要】

コンサート・イベント科、放送芸術科。ミュージック科との合同でそれぞれの分野から学科で必要なスキルを学ぶ。

学内で行われるイベント行事に作品出品することを目標に、自由制作します。

回	授業計画及び学習内容
1	4学科オリエンテーション①
2	4学科オリエンテーション②
3	コンサート・イベント科からPAを学ぶ
4	コンサート・イベント科からステージマネージメントを学ぶ
5	放送芸術科からプリプロダクション・ポストプロダクションを学ぶ
6	放送芸術科からカメラワークを学ぶ
7	ミュージック科からドラムチューニングについて学ぶ
8	課題授業 効果音制作 映像素材に録音した音を付けていく
9	課題授業 効果音制作 映像素材に録音した音を付けていく
10	課題授業 効果音制作 映像素材に録音した音を付けていく
11	課題授業 効果音制作 映像素材に録音した音を付けていく
12	プレビュー
13	講評
14	テクノス祭に向けた学科企画会議
15	テクノス祭テーマに合った作品制作
16	テクノス祭テーマに合った作品制作
17	テクノス祭テーマに合った作品制作
18	テクノス祭テーマに合った作品制作
19	テクノス祭テーマに合った作品制作
20	テクノス祭テーマに合った作品制作
21	テクノス祭テーマに合った作品制作
22	テクノス祭本番 講評
23	テクノス展に向けた参考出品の企画
24	映像を使用した音の作品制作
25	映像を使用した音の作品制作
26	映像を使用した音の作品制作
27	映像を使用した音の作品制作
28	映像を使用した音の作品制作
29	映像を使用した音の作品制作
30	映像を使用した音の作品制作
31	映像を使用した音の作品制作
32	映像を使用した音の作品制作
33	映像を使用した音の作品制作
34	プレビュー
35	講評及び直し
36	テクノス展本番

【成績評価方法】

出席率80%以上 満点の内、課題評価を50点、授業の参加意欲から50点の成績評価を行う
S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格

【授業の特徴・形式と教員紹介】

前期の前半ではエンターテイメント系の教職員から受ける他分野の授業なので、他分野の力が身に付きま

ず。
普段の授業で身に付けたスキルを活かし、作品制作を通じて自由な形で創ることが出来ます。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	音響芸術科 音響芸術コース	2019年度	1年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	映像技術 I	亀田亮治	4単位 72時間

【授業の到達目標及びテーマ】

ポストプロダクション業界で役に立つ映像と音響の基礎を学び、進路の幅を広める。
デジタルだけでなく、アナログにおける根本的な理解を深める。

【講義概要】

一般社団法人日本ポストプロダクション協会発行のポストプロダクション技術マニュアルを参考に、機材の操作技術はもちろん、映像・音声信号の基礎や最新のワークフローなど処理技術の基礎から応用までを養う。
一般社団法人日本ポストプロダクション協会のJPPA映像音響処理技術者認定試験にも対応した授業である。

回	授業計画及び学習内容
1	マスコミについて①
2	マスコミについて②
3	今のアニメーション業界と経済
4	エンジニアとは
5	映像の基礎
6	音声の基礎①
7	音声の基礎②
8	映像・音声の編集と加工①
9	映像・音声の編集と加工②
10	ポストプロダクションの役割
11	解像度と画素
12	映像の調子
13	映像の明るさ、色合い
14	テレビ放送の歴史
15	テレビジョン放送方式の変化
16	デジタル放送の概要
17	前期定期試験
18	講評
19	デジタル信号の映像フォーマット
20	タイムコード
21	インターフェースと映像信号の伝送
22	映像の記録システム
23	VTRのフォーマット
24	ファイルベースシステム
25	各種素材のやり取り方法
26	光ディスクシステム
27	デジタル映像のガンマ特性
28	デジタル映像の補正・調整
29	様々な映像素材
30	映像の製作過程における編集作業
31	リニア編集とノンリニア編集
32	フォーマットコンバート
33	画質の管理方法
34	映像編集をするにあたっての注意点
35	後期定期試験
36	講評

【成績評価方法】

出席率80%以上 100点満点の内、課題評価を50点、授業の参加意欲から50点の成績評価を行う
S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格

【授業の特徴・形式と教員紹介】

資料だけでなく、技術者側からの観点で作品鑑賞をし解説をしてもらうことによりさらに理解が深まります。
今現在もポストプロダクション業界で活躍されているエンジニアの講師による授業であり、進化してゆく映像の技術や音響の技術を業界最前線の視点からお話をしてくれます。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	音響芸術科 音響芸術コース	2019年度	1年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般教養	電気基礎	藤田 猛	4単位 72時間

【授業の到達目標及びテーマ】

様々な機材に対してどれだけの電気エネルギーが使用されているかを理解したうえで機材を使用できるようになる。
そして音響機材に必要な電気回路の仕組みから応用までを学ぶ。

【講義概要】

「電気の基本としくみがよくわかる本」を元に理解を深めてもらう。
一般社団法人日本音楽スタジオ協会のサウンド&レコーディング技術認定試験と、
一般社団法人日本ポストプロダクション協会のJPPA映像音響処理技術者認定試験にも対応した通年授業。

回	授業計画及び学習内容
1	電気の正体(自由電子と帯電)
2	電気の正体(電流)
3	電気の正体(導体と絶縁体、電位と電圧)
4	電気の正体(電気抵抗、イオン)
5	電気の正体(静電気、雷と気体放電)
6	電気の基礎(電力と電力量、電流と電圧)
7	電気の基礎(オームの法則、ジュールの法則)
8	電気の基礎(電気抵抗と発熱量)
9	電気の基礎(電池の直列と並列)
10	電気の基礎(電気抵抗の直列と並列)
11	電気化学と電池(ボルタ電池)
12	電気化学と電池(一次電池、マンガン電池、アルカリ電池、その他の一次電池)
13	電気化学と電池(二次電池、鉛蓄電池、その他の二次電池)
14	電気化学と電池(燃料電池、太陽電池、熱起電力電池)
15	電気化学と電池(コンデンサ)
16	磁気と電気(磁気、電磁石、フレミングの法則、電磁誘導作用)
17	前期定期試験
18	講評
19	半導体と電気(電子とホール、ダイオード、トランジスタ、FET、サイリスタ、IC)
20	半導体と電気(半導体メモリー、整流回路と平滑回路、インバーター、真空管)
21	通信と電波(電磁波、通信と放送)
22	通信と電波(アナログ信号とデジタル信号)
23	通信と電波(パルス信号、変調、アンテナ)
24	通信と電波(ラジオ放送、テレビ放送、電話、携帯電話)
25	通信と電波(インターネット、光通信とADSL)
26	発電(水力発電、火力発電、原子力発電)
27	発電(風力発電、太陽光発電、海洋発電)
28	発電(核融合発電)
29	発電(コジェネレーションシステム)
30	送配電と屋内配線(電力系統、送電、変電所、配電)
31	送配電と屋内配線(架空配電と地中配電、屋内配電、分電盤、電力量計)
32	電気の熱と光(電気と熱、電気と光、電熱器具、電磁調理器)
33	電気の熱と光(電子レンジ、冷蔵庫とエアコン、白熱電球)
34	電気の熱と光(蛍光灯、放電灯、LED照明、レーザー)
35	後期期末試験
36	講評

【成績評価方法】

100点満点の内、課題評価を50点、授業の参加意欲から50点の成績評価を行う
S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格

参考資料などをただ説明するのではなく、職業人による実体験に基づいたエピソードを交えた授業である。
レコーディングエンジニアとしても多くのアーティストを手がけ、また音響機器の発明や開発に携わり、現在でも機器の開発などを積極的に行っているエンジニアである。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	音響芸術科 音響芸術コース	2019年度	1年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門応用	音楽演習	熊坂 正美	4単位 72時間

【授業の到達目標及びテーマ】

通年の授業を通し、一人で楽譜の読み書きが出来るように豊富な譜例で実践的に指導をする。
様々なジャンルの楽曲制作者の心情を読み取り、理解を深める。

【講義概要】

一般財団法人ヤマハ音楽振興会が出版した楽典の教科書を元に、
学んだものを練習問題で確認したり、創作や演奏など音楽の実際面と結びつけながら学んで行く。
また作品鑑賞を通してディスカッションを行い、個人個人の意見を聞くことで幅広い音楽性が身につけられる。

回	授業計画及び学習内容
1	記譜法の基礎知識
2	譜表
3	音名
4	音符と休符
5	拍子の種類
6	リズム符
7	変化記号
8	長音階・短音階・半音階①
9	長音階・短音階・半音階②
10	近親調
11	音程(度数)①
12	音程(度数)②
13	転回音程
14	複音程、単音程
15	異名同音程
16	協和音程と不協和音程
17	前期期末試験
18	講評
19	前期の講評とおさらい
20	3和音
21	音階各音上の和音
22	コードネームの書き方
23	装飾音・装飾記号
24	さまざまな曲を聴いて調判定をする①
25	さまざまな曲を聴いて調判定をする②
26	さまざまな曲を聴いて調判定をする③
27	ポピュラー音楽の形式
28	オーケストラ譜の読み方(ベートーベン)
29	オーケストラ譜の読み方(モーツァルト)
30	オーケストラ譜の読み方(ブラームス)
31	オペラ楽曲の心理
32	作品鑑賞・ディスカッション①
33	作品鑑賞・ディスカッション②
34	作品鑑賞・ディスカッション③
35	後期期末試験
36	講評

【成績評価方法】

出席率80%以上、定期筆記試験100点満点のする60点以下は追試を行う
S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格

【授業の特徴・形式と教員紹介】

現代の曲を使用した授業なので学生たちの関心が非常に高いです。
今現在もオペラ歌手やヴォーカリストとして活躍している業界最前線の講師です。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	音響芸術科 音響芸術コース	2019年度	1年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	音響技術 I	藤田猛	4単位 72時間

【授業の到達目標及びテーマ】

一般社団法人日本音楽スタジオ協会のサウンドレコーディング技術概論を元に学ぶ。
 一般社団法人日本ポストプロダクション協会のJPPA映像音響処理技術者認定試験にも対応した通年授業。
 そして音響機材に必要な電気回路の仕組みから応用までを学ぶ。

【講義概要】

音に関する基本をしっかりと身につけ
 一般社団法人日本音楽スタジオ協会のサウンドレコーディング技術概論を元に学ぶ。
 一般社団法人日本ポストプロダクション協会のJPPA映像音響処理技術者認定試験にも対応した通年授業。
 そして音響機材に必要な電気回路の仕組みから応用までを学ぶ。

回	授業計画及び学習内容
1	音響の基礎
2	音の性質、波の性質、横波と縦波
3	正相と逆相
4	音の速さ
5	デシベルと音圧レベル
6	デシベルの計算
7	楽器の音響的な性質
8	楽器の波形と倍音
9	楽器の指向性
10	周波数特性
11	ダイナミックレンジとS/N
12	マスキング効果
13	両耳効果とステレオ
14	時間差と位相差
15	先行効果(ハース効果)
16	音響物理の基礎
17	前期期末試験
18	講評
19	基本回路
20	オーディオ機器に使用されるパーツ
21	オーディオ回路
22	磁気記録
23	デジタル技術
24	スタジオシステム
25	オーディオシステム
26	MIDIシステム
27	スタジオの配線システム
28	コネクタの構造と特性インピーダンス
29	スタジオで使われるコネクタの種類
30	パッチベイ
31	ミキシングコンソールの歩み
32	シグナルレベルの統一
33	I/Oモジュール
34	マスターセクション
35	後期期末試験
36	講評

【成績評価方法】

出席率80%以上、定期筆記試験100点満点のする60点以下は追試を行う
 S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格

【授業の特徴・形式と教員紹介】

参考資料などをただ説明するのではなく、職業人による実体験に基づいたエピソードを交えた授業である。
 レコーディングエンジニアとしても多くのアーティストを手がけ、また音響機器の発明や開発に携わり、現在でも機器の開発などを積極的に行っているエンジニアである。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	音響芸術科 音響芸術コース	2019年度	1年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門応用	音響心理	鈴木君美	4単位 72時間

【授業の到達目標及びテーマ】

音響が人間の生活にどのように関連しているかを音響物理、音響生理、音響心理分野から多角的に理解さ

【講義概要】

実習室にあるスタジオ設置機材及び周辺設備全般を用いて様々な音源(ソース)でヒアリング訓練等を併用し進めていく。

一般社団法人日本音楽スタジオ協会のサウンドレコーディング技術概論(JAPRS)及び各分野の資料や論文を元に学ぶ。

回	授業計画及び学習内容
1	音響心理とは
2	音響物理(音波の物理特性)①
3	音響物理(音波の物理特性)②
4	音響物理(マイクロフォン関連)①
5	音響物理(マイクロフォン関連)②
6	音響物理(スピーカー関連)①
7	音響物理(スピーカー関連)②
8	音響物理(建築音響、スタジオ各種)
9	音響物理(建築音響、ホール各種)
10	音響物理(建築音響、ラジオとテレビ局)
11	ドップラー効果、ハース効果、音の残響
12	等ラウドネス曲線
13	音波の解析
14	聴覚器官の構造①
15	聴覚器官の構造②
16	音響生理(聴覚機構)
17	前期期末試験
18	講評
19	音響生理(発声機構)①
20	音響生理(発声機構)②
21	音響生理(発声機構)③
22	発音機構(管楽器)
23	発音機構(弦楽器)
24	発音機構(鍵盤楽器)
25	発音機構(打楽器)
26	演奏者の性格心理
27	演奏者の性格心理
28	適正モニターレベル
29	マルチチャンネルミキシング
30	バーチャルサラウンドシステムの評価と問題点①
31	バーチャルサラウンドシステムの評価と問題点②
32	聴覚機能の経年変化と話速変換型システム
33	音場表現①
34	音場表現②
35	後期期末試験
36	講評

【成績評価方法】

出席率80%以上、定期筆記試験100点満点のする60点以下は追試を行う
S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格

【授業の特徴・形式と教員紹介】

ノートはたくさんの図を取り入れ、文章だけで理解するのではなく最新のデジタルの資料や論文を参考に進めている。

長年、レコーディングエンジニアとしてご活躍されておりアナログ時代からデジタル時代まで幅広い知識がある方による講義であり実務経験を取り入れた授業である。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	音響芸術科 音響芸術コース	2019年度	1年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	デジタルオーディオ I	鈴木君美	4単位 72時間

【授業の到達目標及びテーマ】

音響の基本であるアナログ現象を理解させ、これらの記録や再生の為にアナログとデジタル双方における理論と技術を理解させる。

【講義概要】

デジタル技術の誕生から現在までの進展とともに今後の将来性も含めた広いスパンで考えさせる。音響分野と同様に進展中の映像分野との関連も視野に入れ、社会の進路を広げる。

回	授業計画及び学習内容
1	情報通信の歴史(デジタル編)
2	情報通信の歴史(アナログ編)
3	情報通信の歴史(有線方法、無線方法)
4	情報通信の発達(放送技術)①
5	情報通信の発達(放送技術)②
6	情報通信の発達(放送技術)③
7	情報通信の音声技術(オーディオ信号の記録)
8	情報通信の音声技術(記録技術)
9	情報通信の音声技術(再生技術)
10	映像通信(音声記録)
11	映像通信(映像記録)
12	映像通信(アナログ方式)①
13	映像通信(アナログ方式)②
14	映像通信(アナログ方式)③
15	映像通信(デジタル方式)①
16	映像通信(デジタル方式)②
17	前期期末試験
18	講評
19	記録メディアの歴史(ワイヤー方式からテープへ)①
19	記録メディアの歴史(ワイヤー方式からテープへ)②
21	記録メディアの歴史(アナログからデジタル)①
22	記録メディアの歴史(アナログからデジタル)②
23	記録メディアの歴史(テープからディスク)①
24	記録メディアの歴史(テープからディスク)②
25	記録メディアの歴史(磁気方式から光方式)①
26	記録メディアの歴史(磁気方式から光方式)②
27	光ディスク技術(LD)①
28	光ディスク技術(CD)②
29	光ディスク技術(DVD)③
30	磁気ディスク技術(HDD)①
31	磁気ディスク技術(HDD)②
32	磁気ディスク技術(HDD)③
33	レコードとテープの録音①
34	レコードとテープの録音②
35	後期期末試験
36	講評

【成績評価方法】

出席率80%以上、定期筆記試験100点満点のする60点以下は追試を行う
S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格

【授業の特徴・形式と教員紹介】

ノートはたくさんの図を取り入れ、文章だけで理解するのではなく最新のデジタルの資料や論文を参考に進めている。
長年、レコーディングエンジニアとしてご活躍されておりアナログ時代からデジタル時代まで幅広い知識がある方による講義であり実務経験を取り入れた授業である。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	音響芸術科 音響芸術コース	2019年度	1年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	効果制作	長田 暁二	4単位 72時間

【授業の到達目標及びテーマ】

効果音を作る・録る・使う、の基本を身につける

【講義概要】

アニメ、映画、舞台、CMなど様々な場面で使用される効果音をミキサーとして実際にどのように制作・録音・編集するのかを考えさせ、効果音に対する感性を磨かせる。

効果音CDを聞きながら解説をし理解を深める。

二年次の卒業制作で自分達で効果音を作れるように創造力を働かせ、実践的に指導する。

回	授業計画及び学習内容
1	効果音の三大原則
2	効果音の技術の秘密
3	効果音の歴史①
4	効果音の歴史②
5	上手なエフェクトマンになるために①
6	上手なエフェクトマンになるために②
7	四季を彩る効果音
8	春を彩る効果音①
9	春を彩る効果音②
10	夏を彩る効果音①
11	夏を彩る効果音②
12	秋を彩る効果音①
13	秋を彩る効果音②
14	冬を彩る効果音①
15	冬を彩る効果音②
16	音の録音の仕方 自然音(海、川、風、雨、雷)
17	前期期末試験
18	講評
19	生理音の録り方(しゃっくり、咳、あくび、おなら)
20	生理音の録り方(笑い声、泣き声、怒鳴り声、悲鳴)
21	実現できない効果音の作り方(ホラー)
22	実現できない効果音の作り方(戦争)
23	実現できない効果音の作り方(ロボット)
24	時代劇の効果音の作り方①
25	時代劇の効果音の作り方②
26	日常生活における屋内での効果音の録り方①
27	日常生活における屋内での効果音の録り方②
28	日常生活における屋外での効果音の録り方①
29	日常生活における屋外での効果音の録り方②
30	生音から電子音に加工する方法①
31	生音から電子音に加工する方法②
32	オープニングテーマの決め方
33	ドラマでの音声加工
34	映画での音声加工
35	後期期末試験
36	講評

【成績評価方法】

出席率80%以上、定期筆記試験100点満点のする60点以下は追試を行う

S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格

【授業の特徴・形式と教員紹介】

本人が監修・解説・制作をしたCD(50集)をもとに授業を行う。

有名なレコード会社にて企画、制作を担当し日本レコード大賞や日本動揺協会文化賞等数多くの有名な賞を受賞。メディアの発達と歌の変化についての研究では第一人者的存在である。現在ではレコードの制作はもちろん、文化講座への公演も行っている。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	音響芸術科 音響芸術コース	2019年度	1年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門応用	メディアコミュニケーションB	小泉みのり	3単位 108時間

【授業の到達目標及びテーマ】

コンピュータを使用し、CGの基本から入り、応用、テクニック、注意点などを実習していく。他ソフトとの関連なども解説する。映像の最終調整の仕方を理解してもらう。

【講義概要】

CGの基本概念を理解してもらう。パソコンを使って、主にAdobe社ソフトを使いコンピューターグラフィックの基礎を学んでいく。ゼロから作るCGから写真画像を操作して作るCGまで学んでいく。初めは静止画の操作、合成、編集ムービーまで制作する。近年の多様なメディアにも対応。1人で全行程を行い、コンピューターグラフィックスの可能性を知ってもらう。

回	授業計画及び学習内容
1	Adobeソフトの紹介(PS・AI・AE・Pre) 基本操作①Photoshop_ツール・パネル・ファイル・保存・画面サイズと解像度・ショートカットキー
2	Photoshop_ファイル操作と拡張子・複数ファイルの扱い・選択範囲 制作の流れ基本操作②AfterEffects_ワークフロー・操作画面
3	Photoshop写真加工_トリミング・修復ブラシ・コピー・スタンプ 特定の色の色調補正・フィルターAfterEffects_背景アニメーション①フェード・エフェクト・色調補正
4	Photoshop写真合成① レイヤー・切抜きAfterEffects 背景アニメーション②トランジション・キーフレーム
5	Photoshop写真合成② パペットワーク・レイヤーマスクAfterEffects_テキストアニメーション①テキスト調整・アニメーション
6	Photoshopロゴマーク作り レイヤースタイル・クリッピングマスク・グラデーションAfterEffects_動画をアニメ風加工・描画モード
7	Photoshopポストカード作り① 画像操作・文字・スマートオブジェクト・描画モード・変形・AfterEffects_3Dトラッキング・CG合成
8	Photoshopポストカード作り② シェイプで地図作成・調整レイヤー色 RGBとCMYKの違い
9	Photoshop中間制作 CD/DVDジャケット制作
10	AfterEffects Illustrator(ベクトルデータ)連携・マスク・トラックマット・アルファチャンネルについて
11	AfterEffects 3Dレイヤー・3Dカメラ・キーフレーム補完法
12	AfterEffects カメラアニメーション・グラフィティモード
13	AfterEffects 動画の編集・プロジェクトデータの読み込み
14	AfterEffects レンダリング設定・出力モジュール設定・書き出し形式AE期末制作 オリジナル動画制作
15	前期終了制作①
16	前期終了制作②
17	プレビュー
18	講評
19	Premiere編集基本 動画の編集・トランジション・Psd素材の読み込み・ファイルパス・タイトル・音付け
20	Premiere編集基本 映画の予告編(30秒・15秒)
21	AfterEffects 環境設定 レーザービームで爆破(シューティングゲーム風)
22	AfterEffects テキストアニメーションの作成 転送シーンのシュミレーション(スタートレック風)
23	AfterEffects シェイプ・マスクを利用したアニメーションの作成 文字表現 基本・タイトルブラー・3Dレイヤー・マスク
24	AfterEffects レイヤー・エフェクトを活用するPhotoshop スニーカーデザイン 透明をロック・レイヤーマスク
25	中間制作Photoshop スニーカーデザイン
26	AE お絵かきネオン ターゲットスコープから見た映像(トラッキング)
27	AE オブジェクト発光(CC LightRay) シルエットの中に映像(トラックマット)
28	AE 移動する光源の残像を残す/マスクを活用したバックライト表現 きらきら星をまき散らす(パーティクル)
29	AE 隕石落下のシーン(パーティクル)
30	AfterEffects & Premiere連携AE パペットツール 飛び出すグリーディングカード(3Dレイヤー)
31	AE 自然現象の作成 DNAのようにらせん状に回転するテキスト
32	期末制作 英語教材ムービー(ABC Projects) 自由制作①
33	期末制作 英語教材ムービー(ABC Projects) 自由制作②
34	期末制作 英語教材ムービー(ABC Projects) 自由制作③
35	プレビュー
36	講評

【成績評価方法】

中間・期末制作の提出・完成度。授業の理解度。デザイン・技術度。
S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格

【授業の特徴・形式と教員紹介】

実習形式を基本として、PCのソフトウェアについての操作方法から作品作りを通じて実践的な学習を取り入れる。ポストプロダクション業界の出身者で現在はフリーランスのエンジニアとして活動しており、実務経験に基づいて授業展開する。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	音響芸術科 音響芸術コース	2019年度	1年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門応用	制作実習	鈴木 君美/藤田 猛 武田 純/浜田 春菜	6単位 216時間

【授業の到達目標及びテーマ】

録音スタジオでの基本基礎から機材の取り扱い・マイクの種類を学ぶ。PA機材の理解、結線の流れから操作方法を学ぶ。MADIやDANTEのネットワークからProtoolsの実践的な操作方法を学び、エンジニアとしての理解を深める。

【講義概要】

4名の講師で展開しており、スタジオワークからPA機材、録音機材、マイクの取り扱いから応用を理解する。録音スタジオやホール、ライブシーンの業界に対応した授業内容で展開していきます。前半は機材の基本基礎を進め、後半は演者を交えて実践的に進行していきます。

回	授業計画及び学習内容
1	録音スタジオのミキサールーム構造を知る
2	スタジオ側の信号流れから空間の理解
3	ケーブルの種類 ケーブル巻き
4	SL4048Gのモジュール
5	マイクの種類 指向性を知る
6	小型アナログミキサーを操作
7	SL4048GのLINE信号とMIC信号について
8	マイクのセッティングについて
9	SRシステムの流れと仕込みから音出し
10	SL4048Gのバッチベイを使用する
11	マイキング
12	オーディオインターフェースからDAW操作 A/D, D/A変換①
13	オーディオインターフェースからDAW操作 A/D, D/A変換②
14	マルチトラックレコーディング①
15	マルチトラックレコーディング②
16	近接効果
17	楽器の波形と倍音
18	部屋と箱の定在波
19	基本的な楽器の知識
20	特殊楽器に対する知識
21	エフェクトの使用
22	ミキシングコンソールの操作
23	レベルコントロール手法
24	マイク種類の確認から聞き比べ①
25	マイク種類の確認から聞き比べ②
26	ドラムのマイキングから録音①
27	ドラムのマイキングから録音②
28	楽器のマイキングから録音①
29	楽器のマイキングから録音②
30	バンドセットの録音①
31	バンドセットの録音②
32	MIXとマスタリング①
33	MIXとマスタリング②
34	MIXとマスタリング③
35	実技テスト①
36	実技テスト②

【成績評価方法】

100点満点の実習評価として、レポート50点 授業の参加意欲から50点の成績評価を行う
S90～100点 A80～89 B70～79点 C60～69点 D59点以下は不合格

【授業の特徴・形式と教員紹介】

現代のワーク事情に乗っ取った内容で授業展開をしていきます。実際に使用されている機材やシステムの理解から企業ニーズに合わせて指導を行うことで、職業人を育てていきます。現役のサウンドエンジニアから指導をうけることで、より実践に近い手法で物事を覚え、検定試験合格を目指します。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	音響芸術科 音響芸術コース	2019年度	1年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	メディア技術	山下 裕康	4単位 72時間

【授業の到達目標及びテーマ】

エンターテインメント業界で働くための業界理解を深める。企業の代表から受ける授業なので、経営視点の考えや現場視点の考えを理解し実践的な話しを取り入れ業界で活躍できる職業人をを目指す。

【講義概要】

現場に必要な一般知識と近年の現場事情を理解していく。教科書にはない実際に講師自身が経験したノウハウを教わり機材知識や行動力、そして人間力を高める。

回	授業計画及び学習内容
1	担当講師の現在までのプロセスを知る
2	音の正相と逆相
3	メディアの構成や現状①
4	メディアの構成や現状②
5	舞台スタッフの仕事やしぐみ①
6	舞台スタッフの仕事やしぐみ②
7	業界内の人間力について①
8	業界内の人間力について②
9	S/N比 録音機材の進歩①
10	S/N比 録音機材の進歩②
11	スピーカの仕組み①
12	スピーカの仕組み②
13	ライブレコーディング 録音の規模と音楽の種類
14	基本的な注意事項
15	ホールと中継車、楽屋や舞台袖での設置について①
16	ホールと中継車、楽屋や舞台袖での設置について②
17	前期面談
18	前期講評
19	業界の職種理解について①
20	業界の職種理解について②
21	音響制作とは
22	フリーランスと会社所属との違い
23	業界で求められる人物像
24	オーケストラ録音について 管楽器と打楽器①
25	オーケストラ録音について 管楽器と打楽器②
26	録音機について ケーブルの種類や特徴
27	録音機について 機材の種類や特徴
28	サラウンド制作手法
29	様々なサラウンド方式
30	サラウンド収録方法の実際
31	次世代のメディアの可能性
32	3Dオーディオ
33	音場再現技術とその応用例
34	現場トピックス
35	後期面談
36	後期講評

【成績評価方法】

出席率80%以上 授業の参加意欲から50点 面談から50点の100点満点の成績評価
S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格

【授業の特徴・形式と教員紹介】

講師の経験を元に座学形式を基本にしたディスカッション授業。オーケストラの録音からMA、PAと幅広く業務をこなす講師なので、他分野を学ぶことができます。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	音響芸術科 音響芸術コース	2019年度	1年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般教養	ビジネススキル I	武田 純	2単位 36時間

【授業の到達目標及びテーマ】

社会人基礎力基礎

【講義概要】

社会人としてのルールや学校生活を送る中でのルールを座学方式で学ぶ

回	授業計画及び学習内容
1	入学オリエンテーション1
2	入学オリエンテーション2、みどりの村オリエンテーション
3	目的目標設定について
4	インターナショナルウィークについて
5	思いやりと気遣い
6	TAによるイングリッシュ講座①
7	TAによるイングリッシュ講座②
8	一般常識試験
9	一般常識試験の講評
10	チームビルディング①
11	チームビルディング②
12	メールの打ち方 電話対応
13	メールの打ち方 電話対応
14	一般常識試験
15	一般常識試験講評
16	TECHNOS祭学科テーマ決め
17	TECHNOS祭学科企画・模擬店準備
18	TECHNOS祭学科企画・模擬店準備
19	TECHNOS祭学科企画・模擬店準備
20	TECHNOS祭学科企画・模擬店準備
21	TECHNOS祭学科企画・模擬店準備
22	TECHNOS祭学科企画・模擬店準備
23	業界適正検査
24	職業研究
25	求人票の見方
26	履歴書の書き方
27	業界一般常識試験
28	業界一般常識試験講評
29	ビジネスマナー
30	ビジネスマナー
31	ビジネスマナー
32	TECHNOS展参考出品準備
33	TECHNOS展参考出品準備
34	TECHNOS展参考出品準備
35	TECHNOS展参考出品準備
36	1年間の講評

【成績評価方法】

出席率 80%以上

取り組み姿勢

S90～100点 A80～89 B70～79点 C60～69点 D59点以下は不合格

【授業の特徴・形式と教員紹介】

株式会社ヴィ・ビジョンスタジオにてポストプロダクション業務に携わる。その後イベントのライブレコーディングやPAに携わり今に至る。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	音響芸術科 音響芸術コース	2019年度	2年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門応用	デジタルツール	藤田 倫子	2単位 72時間

【授業の到達目標及びテーマ】

音響分野におけるデジタルについて幅広く学び、理解を深めてもらう。

【講義概要】

座学ではなく、実際にPCを使った授業のほかに実習室ではセッティングや機材操作等、言葉だけではなく個々のスキルアップのために実践的に授業を行う。

回	授業計画及び学習内容
1	Protools プラグイン①
2	Protools プラグイン②
3	Protools プラグイン③
4	Protools プラグイン④
5	アウトボードの使い方①
6	アウトボードの使い方②
7	アウトボードの使い方③
8	スプリッターについて①
9	スプリッターについて②
10	ネットワークについて MADI①
11	ネットワークについて MADI②
12	MADIを使ったオーディオインターフェースの流れ①
13	MADIを使ったオーディオインターフェースの流れ②
14	Protools ショートカットキー応用編①
15	Protools ショートカットキー応用編②
16	前期実技試験①
17	前期実技試験②
18	講評
19	マイクの聴き比べ①
20	マイクの聴き比べ②
21	バンドセットマルチトラックについて①
22	バンドセットマルチトラックについて②
23	オーケストラ録音の3点吊り①
24	オーケストラ録音の3点吊り②
25	Protoolsにてマルチトラックミックス①
26	Protoolsにてマルチトラックミックス②
27	中間課題
28	講評
29	マスタリングについて①
30	マスタリングについて②
31	マニピレーターとプロンブタ①
32	マニピレーターとプロンブタ②
33	マニピレーターとプロンブタ③
34	後期課題
35	レビュー
36	講評

【成績評価方法】

出席率80%以上、100点満点の実習評価として授業の参加意欲から50点、定期試験から50点の成績評価を行う

S90～100点 A80～89 B70～79点 C60～69点 D59点以下は不合格

【授業の特徴・形式と教員紹介】

現役レコーディングエンジニアによる実践的な指導。
自身の経験をもとに授業を展開して行く。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	音響芸術科 音響芸術コース	2019年度	2年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門応用	企業現場研修	天野 龍洋	3単位 108時間

【授業の到達目標及びテーマ】

本物の職業人になる前に知っておくべきルールやマナーを理解し、一般知識から応用までを学ぶ。

【講義概要】

現場に必要なルールやマナーを講義形式で学ぶ。教科書にはない実際に講師自身が経験したノウハウを教わり機材知識や行動力、そして人間力を高める。

回	授業計画及び学習内容
1	スタジオのルール①
2	スタジオのルール②
3	エンジニアになるために①
4	エンジニアになるために②
5	エンジニアになるために③
6	アシスタントエンジニアの仕事①
7	アシスタントエンジニアの仕事②
8	アシスタントエンジニアの仕事③
9	マスタリングエンジニアの仕事①
10	マスタリングエンジニアの仕事②
11	録音スタジオの特徴①
12	録音スタジオの特徴②
13	録音スタジオの特徴③
14	音響制作と音響監督の仕事①
15	音響制作と音響監督の仕事②
16	音響制作と音響監督の仕事③
17	前期試験
18	前期まとめ・講評
19	アーティストとのコミュニケーションを上手にとるコツ①
20	アーティストとのコミュニケーションを上手にとるコツ②
21	スタジオでよく使われる機材(ミキサー)①
22	スタジオでよく使われる機材(ミキサー)②
23	スタジオでよく使われる機材(マイク)①
24	スタジオでよく使われる機材(マイク)②
25	スタジオでよく使われる機材(マイク聴き比べ)③
26	スタジオでよく使われる機材(マイク聴き比べ)④
27	アフレコのミックスの仕方①
28	アフレコのミックスの仕方②
29	アフレコのミックスの仕方③
30	映画・吹き替えのミックスの仕方①
31	映画・吹き替えのミックスの仕方②
32	ドラマCDのミックスの仕方①
33	ドラマCDのミックスの仕方②
34	アフレコの台詞合わせとノイズの消し方①
35	後期試験
36	講評

【成績評価方法】

出席率80%以上、100点満点の評価として授業の参加意欲から50点、定期試験から50点の成績評価を行う

【授業の特徴・形式と教員紹介】

都内の様々なレコーディングスタジオで現役で活躍されているエンジニアによる授業であり、今のスタジオではどの機材でどのようにレコーディングをしているかなど業界のホットな話を毎週致しますが、学生は非常に刺激ある授業となっております。

また、社会に出る前の心構えをしっかり自覚するよう指導しております。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	音響芸術科 音響芸術コース	2019年度	2年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門応用	卒業制作	秋元 孝夫/宇田 紗弥香 山下 裕康/武田 純/浜田 春菜子	9単位 324時間

【授業の到達目標及びテーマ】

1年次に学んだ音響分野の基礎を生かし、前期・後期2作品を学生主体で作品をつくる。

【講義概要】

各グループに分かれて企画・制作・編集・納品までを行う。
他の学科へ、協力依頼をして共同制作も展開していきます。
また、作品をSNSで配信することによりクオリティの高い作品づくりを目指します。

回	授業計画及び学習内容
1	企画・ミーティング①
2	企画・ミーティング②
3	グループ分け・テーマ決め①
4	企画書制作①
5	機材操作のおさらい(レコーディング)①
6	機材操作のおさらい(ミックス)①
7	作品制作①
8	作品制作②
9	作品制作③
10	作品制作④
11	作品制作⑤
12	作品制作⑥
13	作品制作⑦
14	作品制作⑧
15	作品制作⑨
16	プレビュー
17	直し
18	講評
19	授業計画及び学習内容
20	企画・ミーティング①
21	企画・ミーティング②
22	グループ分け・テーマ決め①
23	企画書制作①
24	機材操作のおさらい(レコーディング)①
25	機材操作のおさらい(ミックス)①
26	作品制作①
27	作品制作②
28	作品制作③
29	作品制作④
30	作品制作⑤
31	作品制作⑥
32	作品制作⑦
33	作品制作⑧
34	作品制作⑨
35	プレビュー
36	講評

【成績評価方法】

100点満点の実習評価として、レポート50点 授業の参加意欲から50点の成績評価を行う
S90～100点 A80～89 B70～79点 C60～69点 D59点以下は不合格

【授業の特徴・形式と教員紹介】

学生主体の実習ではあるが技術面でさらにクオリティの高い作品に仕上げられるよう講師陣にはアドバイスをもらう。

撮影などで学外に出る際に、地域の方や企業の方への依頼書や問い合わせ電話等、社会のマナーも指導をして行く。株式会社ヴィ・ビジョンスタジオにてポストプロダクション業務に携わる。その後イベントの

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	音響芸術科 大学コース	2019年度	2年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門応用	映像技術Ⅱ	亀田 亮治	4単位 72時間

【授業の到達目標及びテーマ】

ポストプロダクション業界で役に立つ映像と音響の基礎を学び、進路の幅を広める。
デジタルだけでなく、アナログにおける根本的な理解を深める。

【講義概要】

一般社団法人日本ポストプロダクション協会発行のポストプロダクション技術マニュアルを参考に、機材の操作技術はもちろん、映像・音声信号の基礎や最新のワークフローなど処理技術の基礎から応用までを養う。
一般社団法人日本ポストプロダクション協会のJPPA映像音響処理技術者認定試験にも対応した授業である。

回	授業計画及び学習内容
1	MAシステムについて
2	DAWによるMA作業①
3	DAWによるMA作業②
4	デジタル信号
5	音声ファイル
6	MAについて(ミキシングコンソール)①
7	MAについて(ミキシングコンソール)②
8	MAについて(ミキシングコンソール)③
9	MAについて(周辺機器)①
10	MAについて(周辺機器)②
11	MAについて(マイクロフォン)①
12	MAについて(マイクロフォン)②
13	MAについて(DAW)
14	MAについて(音の遅延)
15	MAについて(映像の遅延)
16	MAについて(アニメと映画のMA)
17	前期定期試験
18	前期講評
19	MAについて(デジタルミキシングコンソール)
20	MAについて(デジタルシステムのMAにおける注意点)
21	MAについて(デジタル機器による基準レベル)
22	MAについて(ラウドネスメーター)
23	MAについて(ネットワークオーディオ)
24	MAについて(エフェクト)
25	MAについて(デジタルシステムの同期)
26	MAについて(メーター)
27	Goproを使った映像の制作・講評
28	携帯電話を使った映像の制作・講評
29	カメラのレンズについて①
30	カメラのレンズについて①
31	ドルビーとは
32	サラウンドシステム5.1chサラウンドのMA
33	後期総合課題制作
34	後期総合課題制作
35	課題プレビュー
36	講評

【成績評価方法】

出席率80%以上、100点満点の評価として授業の参加意欲から50点、定期試験から50点の成績評価を行う

S90～100点 A80～89 B70～79点 C60～69点 D59点以下は不合格

【授業の特徴・形式と教員紹介】

資料だけでなく、技術者側からの観点で作品鑑賞をし解説をしてもらうことによりさらに理解が深まります。
今現在もポストプロダクション業界で活躍されている講師による授業であり、進化してゆく映像の技術や音響の技術を業界最前線の視点からお話をしてくれます。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	音響芸術科 音響芸術コース	2019年度	2年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門応用	メディアコミュニケーションⅡ	亀田 亮治	4単位 72時間

【授業の到達目標及びテーマ】

時代の進化に沿ったツールを理解し学ぶ。

【講義概要】

日本ではあまり見ることの出来ないかなり音にこだわった作品である5.1chサラウンド方式の海外ドラマを1年間通して鑑賞し、エンジニアとしての視点から作品を見て、学生と講師がディスカッションを行う。

回	授業計画及び学習内容
1	授業概要説明
2	作品鑑賞・ディスカッション①
3	作品鑑賞・ディスカッション②
4	作品鑑賞・ディスカッション③
5	作品鑑賞・ディスカッション④
6	作品鑑賞・ディスカッション⑤
7	作品鑑賞・ディスカッション⑥
8	作品鑑賞・ディスカッション⑦
9	作品鑑賞・ディスカッション⑧
10	作品鑑賞・ディスカッション⑨
11	作品鑑賞・ディスカッション⑩
12	作品鑑賞・ディスカッション⑪
13	作品鑑賞・ディスカッション⑫
14	作品鑑賞・ディスカッション⑬
15	作品鑑賞・ディスカッション⑭
16	作品鑑賞・ディスカッション⑮
17	前期課題
18	講評
19	作品鑑賞・ディスカッション①
20	作品鑑賞・ディスカッション②
21	作品鑑賞・ディスカッション③
22	作品鑑賞・ディスカッション④
23	作品鑑賞・ディスカッション⑤
24	作品鑑賞・ディスカッション⑥
25	作品鑑賞・ディスカッション⑦
26	作品鑑賞・ディスカッション⑧
27	作品鑑賞・ディスカッション⑨
28	作品鑑賞・ディスカッション⑩
29	作品鑑賞・ディスカッション⑪
30	作品鑑賞・ディスカッション⑫
31	作品鑑賞・ディスカッション⑬
32	作品鑑賞・ディスカッション⑭
33	作品鑑賞・ディスカッション⑮
34	作品鑑賞・ディスカッション⑯
35	後期課題
36	講評

【成績評価方法】

レポート提出形式 レポート評価から50点、ディスカッションの中での主体性や創造力を50点評価とした100点満点形式

S90～100点 A80～89 B70～79点 C60～69点 D59点以下は不合格

【授業の特徴・形式と教員紹介】

作品を通し、他人と意見交換することにより創造力を身につけることが出来ます。

またひとつの作品に限らず、勉強になる作品は数多くあるのでドラマ以外にもバラエティーやドキュメンタリーを鑑賞します。

現在もエンジニアとして活躍しており、数多くの作品を見てきた豊富な知識のある講師が授業を担当。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	音響芸術科 音響芸術コース	2019年度	2年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門応用	音楽制作論	長田 暁二	4単位 72時間

【授業の到達目標及びテーマ】

大衆音楽(フォーク、ロック、J-POP、歌謡曲、民謡)全般に至る常識を身につける。
ヒット曲を身につけるにはどんな人がどんな立場に関わりあっているかを理解させる。

【講義概要】

昭和以降の大衆音楽の歴史や、現代、未来への新しい音楽の分析。
これから音楽の世界で生きて行くうえで必要となる音楽の法律を理解させる。

回	授業計画及び学習内容
1	音楽界と芸能界の違い①
2	音楽界と芸能界の違い①
3	業界の仕組み・裏側
4	クラシック音楽
5	ポピュラー音楽
6	クラシック音楽とポピュラー音楽の違い①
7	クラシック音楽とポピュラー音楽の違い②
8	音楽制作者(ディレクター)
9	音楽制作者(プロデューサー)
10	音楽制作者(録音ミキサー)
11	間接制作者(権利音楽出版社)
12	間接制作者(マネージャー)
13	間接制作者(レコード会社のプロモーター)
14	有線放送とは
15	テレビが歌をどう変えたか①ピンクレディー
16	前期定期試験実施に向けた前期対策
17	前期定期試験
18	前期講評
19	カラオケ音楽とは
20	演歌とポップスの根本的違い
21	音楽著作権①
22	音楽著作権②
23	日本レコード大賞について①
24	日本レコード大賞について①
25	沖縄音楽の文化と歴史①
26	沖縄音楽の文化と歴史①
27	オーケストラの鑑賞・解説①
28	オーケストラの鑑賞・解説②
29	クリスマスソングの歴史①
30	クリスマスソングの歴史②
31	昭和初期時代の歌の歴史①
32	昭和初期時代の歌の歴史②
33	昭和初期時代の歌の歴史③
34	後期試験に向けた対策講座
35	後期定期試験
36	講評

【成績評価方法】

出席率80%以上、定期筆記試験100点満点のする60点以下は追試を行う
S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格

【授業の特徴・形式と教員紹介】

数々の新聞記事や自身が出版した書籍と楽譜を使用した授業。
有名なレコード会社にて企画、制作を担当し日本レコード大賞や日本動揺協会文化賞等数多くの有名な賞を受賞。メディアの発達と歌の変化についての研究では第一人者的存在である。現在ではレコードの制作はもちろん、文化講座への公演も行っている。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	音響芸術科 音響芸術コース	2019年度	2年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門応用	デジタルオーディオⅡ	鈴木 君美	4単位 72時間

【授業の到達目標及びテーマ】

音響機器における最新のデジタル応用技術についての詳細を学ぶ。

【講義概要】

アナログとデジタル両方式の違いによるメリットとデメリットを正しく判断出来る能力を養う。
 二年次卒業制作実習の為に最新の技術機械の操作技能を習得させる。

回	授業計画及び学習内容
1	最新デジタル技術(マルチビット方式)
2	最新デジタル技術(1bit方式)
3	最新デジタル技術(アドバンスセグメント方式)
4	最新デジタル技術(ビット圧縮方式①)
5	最新デジタル技術(ビット圧縮方式②)
6	最新デジタル技術(HDDの歴史①)
7	最新デジタル技術(HDDの歴史②)
8	最新デジタル技術(メカニズム)
9	最新デジタル技術(信号処理)
10	最新デジタル技術(メディア開発)
11	デジタル技術の応用 音声編 (アナログからデジタル)
12	デジタル技術の応用 音声編 (ステレオからサラウンド)
13	デジタル技術の応用 音声編 (マルチ方式からコンパチブルへ)
14	デジタル技術の応用 映像編 (アナログからデジタルへ)
15	デジタル技術の応用 映像編 (FPD技術で大型化)
16	前期定期試験の対策講座
17	前期定期試験
18	講評
19	最新のHDD(磁性機の発達)
20	最新のHDD(メカニズムの発達)
21	最新のHDD(サーボ制御技術)
22	最新のHDD(HDDの正しい使用方法)
23	最新のHDD(将来性の技術各種)①
24	最新のHDD(将来性の技術各種)②
25	音声記録概論の歴史①
26	音声記録概論の歴史②
27	音声記録技術(アナログ技術)①
28	音声記録技術(アナログ技術)②
29	音声記録技術(デジタル技術)①
30	音声記録技術(デジタル技術)②
31	将来の記録技術と再生技術(FPDによる音質劣化)
32	将来の記録技術と再生技術(収録技術)
33	将来の記録技術と再生技術(再生技術)
34	後期定期試験の対策講座
35	後期定期試験
36	講評

【成績評価方法】

出席率80%以上、定期筆記試験100点満点のする60点以下は追試を行う
 S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格

【授業の特徴・形式と教員紹介】

ノートはたくさんの図を取り入れ、文章だけで理解するのではなく最新のデジタルの資料や論文を参考に進めている。
 長年、レコーディングエンジニアとしてご活躍されておりアナログ時代からデジタル時代まで幅広い知識がある方による講義であり実務経験を取り入れた授業である。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	音響芸術科 音響芸術コース	2019年度	2年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般教養	ビジネススキルⅡ	武田 純	2単位 36時間

【授業の到達目標及びテーマ】

社会人基礎向上を目的とし、本物の職業人を目指す。

【講義概要】

就職活動のため履歴書の作成方法や面接対策
社会人として必要な知識と理解
TECHNOS祭の準備と作業
TECHNOS展の準備と作業

回	授業計画及び学習内容
1	前期オリエンテーション
2	2年生ですべきことの確認
3	就職についての流れ
4	一般常識試験
5	年金について
6	所得税について
7	保険や年末調整について
8	TAから学ぶビギナーズイングリッシュ
9	合同企業説明会に参加
10	業種や企業研究
11	ビジネスマナー①言葉遣い
12	ビジネスマナー②電話応対や名刺交換ロールプレイ
13	ビジネスマナー③立ち居振る舞い
14	夏季休暇中の課題確認
15	夏季休暇中の課題チェック
16	TECHNOS祭の企画会議
17	TECHNOS祭の学科企画準備 お客様のことを考えた音企画の準備
18	TECHNOS祭の学科企画準備 お客様のことを考えた音企画の準備
19	TECHNOS祭の学科企画準備 お客様のことを考えた音企画の準備
20	TECHNOS祭の学科企画準備 お客様のことを考えた音企画の準備
21	TECHNOS祭の学科企画準備 お客様のことを考えた音企画の準備
22	TECHNOS祭本番日
23	一般常識試験
24	観劇会
25	5年後10年後の自分について
26	卒業研究の目的と目標
27	卒業研究の企画会議
28	実施日の確認と実行までの流れについて※授業時間外に実施
29	TECHNOS展に向けた企画会議
30	TECHNOS展の展示方法について
31	TECHNOS展の装飾や使用機材の確認
32	TECHNOS展のパッケージについて
33	TECHNOS展へ向けた最終制作
34	TECHNOS展へ向けた最終制作
35	プレビュー会
36	2年間の講評

【成績評価方法】

出席率 80%以上

取り組み姿勢

S90～100点 A80～89 B70～79点 C60～69点 D59点以下は不合格

【授業の特徴・形式と教員紹介】

株式会社ヴィ・ビジョンスタジオにてポストプロダクション業務に携わる。その後イベントのライブレコーディングやPAに携わり今に至る。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	音響芸術科 大学コース	2019年度	1年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門応用	メディアコミュニケーションA	天野 龍洋	2単位 72時間

【授業の到達目標及びテーマ】

業界では主流に使用されている音楽編集・録音ソフト「Protools」の基礎から応用を学ぶ。
また、パソコンの初期設定や基本操作も身につける。

【講義概要】

JAPRS認定Protools技術認定試験の受験を視野に入れ、基本基礎から応用までを年間で習得していく。

回	授業計画及び学習内容
1	セッションを作成 サンプリング周波数とBit数
2	トラックを作成 レベルと調整
3	編集の流れ
4	音楽編集(1)
5	音楽編集(2)
6	DTMとは
7	打ち込みリズム
8	打ち込みメロディー
9	作曲にチャレンジ(1)
10	作曲にチャレンジ(2)
11	作曲にチャレンジ(3)
12	中間制作
13	中間制作
14	中間制作
15	プレビュー
16	直し
17	講評
18	前期おさらい
19	プラグインの種類
20	空間系のプラグイン
21	コンプレッサーのプラグイン
22	その他プラグイン
23	MIX作業について
24	音楽MIX(1)
25	音楽MIX(2)
26	マスタリングについて
27	音楽マスタリング(1)
28	音楽マスタリング(2)
29	Protoolsショートカット(1)
30	Protoolsショートカット(2)
31	Protoolsショートカット(3)
32	LEとHDの違い
33	HDを操作
34	後期課題
35	プレビュー
36	講評

【成績評価方法】

100点満点の内、課題評価を50点、授業の参加意欲から50点の成績評価を行う
S90～100点 A80～89 B70～79点 C60～69点 D59点以下は不合格

【授業の特徴・形式と教員紹介】

ProtoolsのLEとHDの違いを理解しつつ、受講者全員がしっかりと力を付け職業人を目指す。現役エンジニアの講師から学びます。普段は録音エンジニアとして、スタジオではMA、音楽ではライブ録音など幅広く活躍されております。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	音響芸術科 大学コース	2019年度	1年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門応用	応用実習 I	武田 純 浜田 春菜子	3単位 108時間

【授業の到達目標及びテーマ】

他分野からの視点で授業を展開することで、将来の目指す幅を広げることや出来ることのスキルを増やす。

【講義概要】

コンサート・イベント科、放送芸術科。ミュージック科との合同でそれぞれの分野から学科で必要なスキルを学ぶ。

学内で行われるイベント行事に作品出品することを目標に、自由制作します。

回	授業計画及び学習内容
1	4学科オリエンテーション①
2	4学科オリエンテーション②
3	コンサート・イベント科からPAを学ぶ
4	コンサート・イベント科からステージマネージメントを学ぶ
5	放送芸術科からプリプロダクション・ポストプロダクションを学ぶ
6	放送芸術科からカメラワークを学ぶ
7	ミュージック科からドラムチューニングについて学ぶ
8	課題授業 効果音制作 映像素材に録音した音を付けていく
9	課題授業 効果音制作 映像素材に録音した音を付けていく
10	課題授業 効果音制作 映像素材に録音した音を付けていく
11	課題授業 効果音制作 映像素材に録音した音を付けていく
12	プレビュー
13	講評
14	テクノス祭に向けた学科企画会議
15	テクノス祭テーマに合った作品制作
16	テクノス祭テーマに合った作品制作
17	テクノス祭テーマに合った作品制作
18	テクノス祭テーマに合った作品制作
19	テクノス祭テーマに合った作品制作
20	テクノス祭テーマに合った作品制作
21	テクノス祭テーマに合った作品制作
22	テクノス祭本番 講評
23	テクノス展に向けた参考出品の企画
24	映像を使用した音の作品制作
25	映像を使用した音の作品制作
26	映像を使用した音の作品制作
27	映像を使用した音の作品制作
28	映像を使用した音の作品制作
29	映像を使用した音の作品制作
30	映像を使用した音の作品制作
31	映像を使用した音の作品制作
32	映像を使用した音の作品制作
33	映像を使用した音の作品制作
34	プレビュー
35	講評及び直し
36	テクノス展本番

【成績評価方法】

出席率80%以上 満点の内、課題評価を50点、授業の参加意欲から50点の成績評価を行う
S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格

【授業の特徴・形式と教員紹介】

前期の前半ではエンターテイメント系の教職員から受ける他分野の授業なので、他分野の力が身に付きま

ず。
普段の授業で身に付けたスキルを活かし、作品制作を通じて自由な形で創ることが出来ます。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	音響芸術科 大学コース	2019年度	1年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	映像技術Ⅰ	亀田 亮治	4単位 72時間

【授業の到達目標及びテーマ】

ポストプロダクション業界で役に立つ映像と音響の基礎を学び、進路の幅を広める。
デジタルだけでなく、アナログにおける根本的な理解を深める。

【講義概要】

一般社団法人日本ポストプロダクション協会発行のポストプロダクション技術マニュアルを参考に、機材の操作技術はもちろん、映像・音声信号の基礎や最新のワークフローなど処理技術の基礎から応用までを養う。
一般社団法人日本ポストプロダクション協会のJPPA映像音響処理技術者認定試験にも対応した授業である。

回	授業計画及び学習内容
1	マスコミについて①
2	マスコミについて②
3	今のアニメーション業界と経済
4	エンジニアとは
5	映像の基礎
6	音声の基礎①
7	音声の基礎②
8	映像・音声の編集と加工①
9	映像・音声の編集と加工②
10	ポストプロダクションの役割
11	解像度と画素
12	映像の調子
13	映像の明るさ、色合い
14	テレビ放送の歴史
15	テレビジョン放送方式の変化
16	デジタル放送の概要
17	前期定期試験
18	講評
19	デジタル信号の映像フォーマット
20	タイムコード
21	インターフェースと映像信号の伝送
22	映像の記録システム
23	VTRのフォーマット
24	ファイルベースシステム
25	各種素材のやり取り方法
26	光ディスクシステム
27	デジタル映像のガンマ特性
28	デジタル映像の補正・調整
29	様々な映像素材
30	映像の製作過程における編集作業
31	リニア編集とノンリニア編集
32	フォーマットコンバート
33	画質の管理方法
34	映像編集をするにあたっての注意点
35	後期定期試験
36	講評

【成績評価方法】

出席率80%以上 100点満点の内、課題評価を50点、授業の参加意欲から50点の成績評価を行う
S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格

【授業の特徴・形式と教員紹介】

資料だけでなく、技術者側からの観点で作品鑑賞をし解説をしてもらうことによりさらに理解が深まります。
今現在もポストプロダクション業界で活躍されているエンジニアの講師による授業であり、進化してゆく映像の技術や音響の技術を業界最前線の視点からお話をしてくれます。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	音響芸術科 大学コース	2019年度	1年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般教養	電気基礎	藤田 猛	4単位 72時間

【授業の到達目標及びテーマ】

様々な機材に対してどれだけの電気エネルギーが使用されているかを理解したうえで機材を使用できるようになる。
そして音響機材に必要な電気回路の仕組みから応用までを学ぶ。

【講義概要】

「電気の基本としくみがよくわかる本」を元に理解を深めてもらう。
一般社団法人日本音楽スタジオ協会のサウンド&レコーディング技術認定試験と、
一般社団法人日本ポストプロダクション協会のJPPA映像音響処理技術者認定試験にも対応した通年授業。

回	授業計画及び学習内容
1	電気の正体(自由電子と帯電)
2	電気の正体(電流)
3	電気の正体(導体と絶縁体、電位と電圧)
4	電気の正体(電気抵抗、イオン)
5	電気の正体(静電気、雷と気体放電)
6	電気の基礎(電力と電力量、電流と電圧)
7	電気の基礎(オームの法則、ジュールの法則)
8	電気の基礎(電気抵抗と発熱量)
9	電気の基礎(電池の直列と並列)
10	電気の基礎(電気抵抗の直列と並列)
11	電気化学と電池(ボルタ電池)
12	電気化学と電池(一次電池、マンガン電池、アルカリ電池、その他の一次電池)
13	電気化学と電池(二次電池、鉛蓄電池、その他の二次電池)
14	電気化学と電池(燃料電池、太陽電池、熱起電力電池)
15	電気化学と電池(コンデンサ)
16	磁気と電気(磁気、電磁石、フレミングの法則、電磁誘導作用)
17	前期定期試験
18	講評
19	半導体と電気(電子とホール、ダイオード、トランジスタ、FET、サイリスタ、IC)
20	半導体と電気(半導体メモリー、整流回路と平滑回路、インバーター、真空管)
21	通信と電波(電磁波、通信と放送)
22	通信と電波(アナログ信号とデジタル信号)
23	通信と電波(パルス信号、変調、アンテナ)
24	通信と電波(ラジオ放送、テレビ放送、電話、携帯電話)
25	通信と電波(インターネット、光通信とADSL)
26	発電(水力発電、火力発電、原子力発電)
27	発電(風力発電、太陽光発電、海洋発電)
28	発電(核融合発電)
29	発電(コジェネレーションシステム)
30	送配電と屋内配線(電力系統、送電、変電所、配電)
31	送配電と屋内配線(架空配電と地中配電、屋内配電、分電盤、電力量計)
32	電気の熱と光(電気と熱、電気と光、電熱器具、電磁調理器)
33	電気の熱と光(電子レンジ、冷蔵庫とエアコン、白熱電球)
34	電気の熱と光(蛍光灯、放電灯、LED照明、レーザー)
35	後期期末試験
36	講評

【成績評価方法】

100点満点の内、課題評価を50点、授業の参加意欲から50点の成績評価を行う
S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格

参考資料などをただ説明するのではなく、職業人による実体験に基づいたエピソードを交えた授業である。
レコーディングエンジニアとしても多くのアーティストを手がけ、また音響機器の発明や開発に携わり、現在でも機器の開発などを積極的に行っているエンジニアである。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	音響芸術科 大学コース	2019年度	1年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門応用	音楽演習	熊坂 正美	4単位 72時間

【授業の到達目標及びテーマ】

通年の授業を通し、一人で楽譜の読み書きが出来るように豊富な譜例で実践的に指導をする。
様々なジャンルの楽曲制作者の心情を読み取り、理解を深める。

【講義概要】

一般財団法人ヤマハ音楽振興会が出版した楽典の教科書を元に、
学んだものを練習問題で確認したり、創作や演奏など音楽の実際面と結びつけながら学んで行く。
また作品鑑賞を通してディスカッションを行い、個人個人の意見を聞くことで幅広い音楽性が身につけられる。

回	授業計画及び学習内容
1	記譜法の基礎知識
2	譜表
3	音名
4	音符と休符
5	拍子の種類
6	リズム符
7	変化記号
8	長音階・短音階・半音階①
9	長音階・短音階・半音階②
10	近親調
11	音程(度数)①
12	音程(度数)②
13	転回音程
14	複音程、単音程
15	異名同音程
16	協和音程と不協和音程
17	前期期末試験
18	講評
19	前期の講評とおさらい
20	3和音
21	音階各音上の和音
22	コードネームの書き方
23	装飾音・装飾記号
24	さまざまな曲を聴いて調判定をする①
25	さまざまな曲を聴いて調判定をする②
26	さまざまな曲を聴いて調判定をする③
27	ポピュラー音楽の形式
28	オーケストラ譜の読み方(ベートーベン)
29	オーケストラ譜の読み方(モーツァルト)
30	オーケストラ譜の読み方(ブラームス)
31	オペラ楽曲の心理
32	作品鑑賞・ディスカッション①
33	作品鑑賞・ディスカッション②
34	作品鑑賞・ディスカッション③
35	後期期末試験
36	講評

【成績評価方法】

出席率80%以上、定期筆記試験100点満点のする60点以下は追試を行う
S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格

【授業の特徴・形式と教員紹介】

現代の曲を使用した授業なので学生たちの関心が非常に高いです。
今現在もオペラ歌手やヴォーカリストとして活躍している業界最前線の講師です。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	音響芸術科 大学コース	2019年度	1年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	音響技術 I	藤田 猛	4単位 72時間

【授業の到達目標及びテーマ】

一般社団法人日本音楽スタジオ協会のサウンドレコーディング技術概論を元に学ぶ。
 一般社団法人日本ポストプロダクション協会のJPPA映像音響処理技術者認定試験にも対応した通年授業。
 そして音響機材に必要な電気回路の仕組みから応用までを学ぶ。

【講義概要】

音に関する基本をしっかりと身につけ
 一般社団法人日本音楽スタジオ協会のサウンドレコーディング技術概論を元に学ぶ。
 一般社団法人日本ポストプロダクション協会のJPPA映像音響処理技術者認定試験にも対応した通年授業。
 そして音響機材に必要な電気回路の仕組みから応用までを学ぶ。

回	授業計画及び学習内容
1	音響の基礎
2	音の性質、波の性質、横波と縦波
3	正相と逆相
4	音の速さ
5	デシベルと音圧レベル
6	デシベルの計算
7	楽器の音響的な性質
8	楽器の波形と倍音
9	楽器の指向性
10	周波数特性
11	ダイナミックレンジとS/N
12	マスキング効果
13	両耳効果とステレオ
14	時間差と位相差
15	先行効果(ハース効果)
16	音響物理の基礎
17	前期期末試験
18	講評
19	基本回路
20	オーディオ機器に使用されるパーツ
21	オーディオ回路
22	磁気記録
23	デジタル技術
24	スタジオシステム
25	オーディオシステム
26	MIDIシステム
27	スタジオの配線システム
28	コネクタの構造と特性インピーダンス
29	スタジオで使われるコネクタの種類
30	パッチベイ
31	ミキシングコンソールの歩み
32	シグナルレベルの統一
33	I/Oモジュール
34	マスターセクション
35	後期期末試験
36	講評

【成績評価方法】

出席率80%以上、定期筆記試験100点満点のする60点以下は追試を行う
 S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格

【授業の特徴・形式と教員紹介】

参考資料などをただ説明するのではなく、職業人による実体験に基づいたエピソードを交えた授業である。
 レコーディングエンジニアとしても多くのアーティストを手がけ、また音響機器の発明や開発に携わり、現在でも機器の開発などを積極的に行っているエンジニアである。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	音響芸術科 大学コース	2019年度	1年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門応用	音響心理	鈴木 君美	4単位 72時間

【授業の到達目標及びテーマ】

音響が人間の生活にどのように関連しているかを音響物理、音響生理、音響心理分野から多角的に理解さ

【講義概要】

実習室にあるスタジオ設置機材及び周辺設備全般を用いて様々な音源(ソース)でヒアリング訓練等を併用し進めていく。

一般社団法人日本音楽スタジオ協会のサウンドレコーディング技術概論(JAPRS)及び各分野の資料や論文を元に学ぶ。

回	授業計画及び学習内容
1	音響心理とは
2	音響物理(音波の物理特性)①
3	音響物理(音波の物理特性)②
4	音響物理(マイクロフォン関連)①
5	音響物理(マイクロフォン関連)②
6	音響物理(スピーカー関連)①
7	音響物理(スピーカー関連)②
8	音響物理(建築音響、スタジオ各種)
9	音響物理(建築音響、ホール各種)
10	音響物理(建築音響、ラジオとテレビ局)
11	ドップラー効果、ハース効果、音の残響
12	等ラウドネス曲線
13	音波の解析
14	聴覚器官の構造①
15	聴覚器官の構造②
16	音響生理(聴覚機構)
17	前期期末試験
18	講評
19	音響生理(発声機構)①
20	音響生理(発声機構)②
21	音響生理(発声機構)③
22	発音機構(管楽器)
23	発音機構(弦楽器)
24	発音機構(鍵盤楽器)
25	発音機構(打楽器)
26	演奏者の性格心理
27	演奏者の性格心理
28	適正モニターレベル
29	マルチチャンネルミキシング
30	バーチャルサラウンドシステムの評価と問題点①
31	バーチャルサラウンドシステムの評価と問題点②
32	聴覚機能の経年変化と話速変換型システム
33	音場表現①
34	音場表現②
35	後期期末試験
36	講評

【成績評価方法】

出席率80%以上、定期筆記試験100点満点のする60点以下は追試を行う
S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格

【授業の特徴・形式と教員紹介】

ノートはたくさんの図を取り入れ、文章だけで理解するのではなく最新のデジタルの資料や論文を参考に進めている。

長年、レコーディングエンジニアとしてご活躍されておりアナログ時代からデジタル時代まで幅広い知識がある方による講義であり実務経験を取り入れた授業である。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	音響芸術科 大学コース	2019年度	1年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	デジタルオーディオ I	鈴木 君美	4単位 72時間

【授業の到達目標及びテーマ】

音響の基本であるアナログ現象を理解させ、これらの記録や再生の為にアナログとデジタル双方における理論と技術を理解させる。

【講義概要】

デジタル技術の誕生から現在までの進展とともに今後の将来性も含めた広いスパンで考えさせる。音響分野と同様に進展中の映像分野との関連も視野に入れ、社会の進路を広げる。

回	授業計画及び学習内容
1	情報通信の歴史(デジタル編)
2	情報通信の歴史(アナログ編)
3	情報通信の歴史(有線方法、無線方法)
4	情報通信の発達(放送技術)①
5	情報通信の発達(放送技術)②
6	情報通信の発達(放送技術)③
7	情報通信の音声技術(オーディオ信号の記録)
8	情報通信の音声技術(記録技術)
9	情報通信の音声技術(再生技術)
10	映像通信(音声記録)
11	映像通信(映像記録)
12	映像通信(アナログ方式)①
13	映像通信(アナログ方式)②
14	映像通信(アナログ方式)③
15	映像通信(デジタル方式)①
16	映像通信(デジタル方式)②
17	前期期末試験
18	講評
19	記録メディアの歴史(ワイヤー方式からテープへ)①
19	記録メディアの歴史(ワイヤー方式からテープへ)②
21	記録メディアの歴史(アナログからデジタル)①
22	記録メディアの歴史(アナログからデジタル)②
23	記録メディアの歴史(テープからディスク)①
24	記録メディアの歴史(テープからディスク)②
25	記録メディアの歴史(磁気方式から光方式)①
26	記録メディアの歴史(磁気方式から光方式)②
27	光ディスク技術(LD)①
28	光ディスク技術(CD)②
29	光ディスク技術(DVD)③
30	磁気ディスク技術(HDD)①
31	磁気ディスク技術(HDD)②
32	磁気ディスク技術(HDD)③
33	レコードとテープの録音①
34	レコードとテープの録音②
35	後期期末試験
36	講評

【成績評価方法】

出席率80%以上、定期筆記試験100点満点のする60点以下は追試を行う
S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格

【授業の特徴・形式と教員紹介】

ノートはたくさんの図を取り入れ、文章だけで理解するのではなく最新のデジタルの資料や論文を参考に進めている。
長年、レコーディングエンジニアとしてご活躍されておりアナログ時代からデジタル時代まで幅広い知識がある方による講義であり実務経験を取り入れた授業である。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	音響芸術科 大学コース	2019年度	1年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	効果制作	長田 暁二	4単位 72時間

【授業の到達目標及びテーマ】

効果音を作る・録る・使う、の基本を身につける

【講義概要】

アニメ、映画、舞台、CMなど様々な場面で使用される効果音をミキサーとして実際にどのように制作・録音・編集するのかを考えさせ、効果音に対する感性を磨かせる。

効果音CDを聞きながら解説をし理解を深める。

二年次の卒業制作で自分達で効果音を作れるように創造力を働かせ、実践的に指導する。

回	授業計画及び学習内容
1	効果音の三大原則
2	効果音の技術の秘密
3	効果音の歴史①
4	効果音の歴史②
5	上手なエフェクトマンになるために①
6	上手なエフェクトマンになるために②
7	四季を彩る効果音
8	春を彩る効果音①
9	春を彩る効果音②
10	夏を彩る効果音①
11	夏を彩る効果音②
12	秋を彩る効果音①
13	秋を彩る効果音②
14	冬を彩る効果音①
15	冬を彩る効果音②
16	音の録音の仕方 自然音(海、川、風、雨、雷)
17	前期期末試験
18	講評
19	生理音の録り方(しゃっくり、咳、あくび、おなら)
20	生理音の録り方(笑い声、泣き声、怒鳴り声、悲鳴)
21	実現できない効果音の作り方(ホラー)
22	実現できない効果音の作り方(戦争)
23	実現できない効果音の作り方(ロボット)
24	時代劇の効果音の作り方①
25	時代劇の効果音の作り方②
26	日常生活における屋内での効果音の録り方①
27	日常生活における屋内での効果音の録り方②
28	日常生活における屋外での効果音の録り方①
29	日常生活における屋外での効果音の録り方②
30	生音から電子音に加工する方法①
31	生音から電子音に加工する方法②
32	オープニングテーマの決め方
33	ドラマでの音声加工
34	映画での音声加工
35	後期期末試験
36	講評

【成績評価方法】

出席率80%以上、定期筆記試験100点満点のする60点以下は追試を行う

S90～100点 A80～89 B70～79点 C60～69点 D59点以下は不合格

【授業の特徴・形式と教員紹介】

本人が監修・解説・制作をしたCD(50集)をもとに授業を行う。

有名なレコード会社にて企画、制作を担当し日本レコード大賞や日本動揺協会文化賞等数多くの有名な賞を受賞。メディアの発達と歌の変化についての研究では第一人者的存在である。現在ではレコードの制作はもちろん、文化講座への公演も行っている。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	音響芸術科 大学コース	2019年度	1年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門応用	メディアコミュニケーションB	小泉 みのり	3単位 108時間

【授業の到達目標及びテーマ】

コンピュータを使用し、CGの基本から入り、応用、テクニック、注意点などを実習していく。他ソフトとの関連なども解説する。映像の最終調整の仕方を理解してもらう。

【講義概要】

CGの基本概念を理解してもらう。パソコンを使って、主にAdobe社ソフトを使いコンピューターグラフィックの基礎を学んでいく。ゼロから作るCGから写真画像を操作して作るCGまで学んでいく。初めは静止画の操作、合成、編集ムービーまで制作する。近年の多様化メディアにも対応。1人で全行程を行い、コンピューターグラフィックスの可能性を知ってもらう。

回	授業計画及び学習内容
1	Adobeソフトの紹介(PS・AI・AE・Pre) 基本操作①Photoshop_ツール・パネル・ファイル・保存・画面サイズと解像度・ショートカットキー
2	Photoshop_ファイル操作と拡張子・複数ファイルの扱い・選択範囲 制作の流れ基本操作②AfterEffects_ワークフロー・操作画面
3	Photoshop写真加工_トリミング・修復ブラシ・コピー・スタンプ 特定の色の色調補正・フィルターAfterEffects_背景アニメーション①フェード・エフェクト・色調補正
4	Photoshop写真合成①_レイヤー・切抜きAfterEffects_背景アニメーション②トランジション・キーフレーム
5	Photoshop写真合成②_パペットワープ・レイヤーマスクAfterEffects_テキストアニメーション①テキスト調整・アニメーション
6	Photoshopロゴマーク作り_レイヤースタイル・クリッピングマスク・グラデーションAfterEffects_動画をアニメ風に加工・描画モード
7	Photoshopポストカード作り①_画像操作・文字・スマートオブジェクト・描画モード・変形・AfterEffects_3Dトラッキング・CG合成
8	Photoshopポストカード作り②_シェイプで地図作成・調整レイヤー色 RGBとCMYKの違い
9	Photoshop中間制作 CD/DVDジャケット制作
10	AfterEffects Illustrator(ベクトルデータ)連携・マスク・トラックマット・アルファチャンネルについて
11	AfterEffects 3Dレイヤー・3Dカメラ・キーフレーム補完法
12	AfterEffects カメラアニメーション・グラフエディタモード
13	AfterEffects 動画の編集・プロジェクトデータの読み込み
14	AfterEffects レンダリング設定・出力モジュール設定・書き出し形式AE期末制作 オリジナル動画制作
15	前期終了制作①
16	前期終了制作②
17	プレビュー
18	講評
19	Premiere編集基本 動画の編集・トランジション・Psd素材の読み込み・ファイルパス・タイトル・音付け
20	Premiere編集基本 映画の予告編(30秒・15秒)
21	AfterEffects_環境設定 レーザービームで爆破(シューティングゲーム風)
22	AfterEffects_テキストアニメーションの作成 転送シーンのシュミレーション(スタートレック風)
23	AfterEffects_シェイプ・マスクを利用したアニメーションの作成 文字表現 基本・タイトルブラー・3Dレイヤー・マスク
24	AfterEffects_レイヤー・エフェクトを活用するPhotoshop_スニーカーデザイン_透明をロック・レイヤーマスク
25	中間制作Photoshop_スニーカーデザイン
26	AE お絵かきネオン ターゲットスコープから見た映像(トラッキング)
27	AE オブジェクト発光(CC LightRay) シルエットの中に映像(トラックマット)
28	AE_移動する光源の残像を残す/マスクを活用したバックライト表現 きらきら星をまき散らす(パーティクル)
29	AE_隕石落下のシーン(パーティクル)
30	AfterEffects & Premiere連携AE_パペットツール 飛び出すグリーディングカード(3Dレイヤー)
31	AE_自然現象の作成 DNAのようにらせん状に回転するテキスト
32	期末制作 英語教材ムービー(ABC Projects) 自由制作①
33	期末制作 英語教材ムービー(ABC Projects) 自由制作②
34	期末制作 英語教材ムービー(ABC Projects) 自由制作③
35	プレビュー
36	講評

【成績評価方法】

中間・期末制作の提出・完成度。授業の理解度。デザイン・技術度。
S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格

【授業の特徴・形式と教員紹介】

実習形式を基本として、PCのソフトウェアについての操作方法から作品作りを通じて実践的な学習を取り入れる。ポストプロダクション業界の出身者で現在はフリーランスのエンジニアとして活動しており、実務経験に基づいて授業展開する。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	音響芸術科 大学コース	2019年度	1年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門応用	制作実習	鈴木 君美/藤田 猛 武田 純/浜田 春菜	6単位 216時間

【授業の到達目標及びテーマ】

録音スタジオでの基本基礎から機材の取り扱い・マイクの種類を学ぶ。PA機材の理解、結線の流れから操作方法を学ぶ。MADIやDANTEのネットワークからProtoolsの実践的な操作方法を学び、エンジニアとしての理解を深める。

【講義概要】

4名の講師で展開しており、スタジオワークからPA機材、録音機材、マイクの取り扱いから応用を理解する。録音スタジオやホール、ライブシーンの業界に対応した授業内容で展開していきます。前半は機材の基本基礎を進め、後半は演者を交えて実践的に進行していきます。

回	授業計画及び学習内容
1	録音スタジオのミキサールーム構造を知る
2	スタジオ側の信号流れから空間の理解
3	ケーブルの種類 ケーブル巻き
4	SL4048Gのモジュール
5	マイクの種類 指向性を知る
6	小型アナログミキサーを操作
7	SL4048GのLINE信号とMIC信号について
8	マイクのセッティングについて
9	SRシステムの流れと仕込みから音出し
10	SL4048Gのバッチベイを使用する
11	マイキング
12	オーディオインターフェースからDAW操作 A/D, D/A変換①
13	オーディオインターフェースからDAW操作 A/D, D/A変換②
14	マルチトラックレコーディング①
15	マルチトラックレコーディング②
16	近接効果
17	楽器の波形と倍音
18	部屋と箱の定在波
19	基本的な楽器の知識
20	特殊楽器に対する知識
21	エフェクトの使用
22	ミキシングコンソールの操作
23	レベルコントロール手法
24	マイク種類の確認から聞き比べ①
25	マイク種類の確認から聞き比べ②
26	ドラムのマイキングから録音①
27	ドラムのマイキングから録音②
28	楽器のマイキングから録音①
29	楽器のマイキングから録音②
30	バンドセットの録音①
31	バンドセットの録音②
32	MIXとマスタリング①
33	MIXとマスタリング②
34	MIXとマスタリング③
35	実技テスト①
36	実技テスト②

【成績評価方法】

100点満点の実習評価として、レポート50点 授業の参加意欲から50点の成績評価を行う
S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格

【授業の特徴・形式と教員紹介】

現代のワーク事情に乗っ取った内容で授業展開をしていきます。実際に使用されている機材やシステムの理解から企業ニーズに合わせて指導を行うことで、職業人を育てていきます。現役のサウンドエンジニアから指導を受けることで、より実践に近い手法で物事を覚え、検定試験合格を目指します。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	音響芸術科 大学コース	2019年度	1年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門基礎	メディア技術	山下 裕康	4単位 72時間

【授業の到達目標及びテーマ】

エンターテインメント業界で働くための業界理解を深める。企業の代表から受ける授業なので、経営視点の考えや現場視点の考えを理解し実践的な話しを取り入れ業界で活躍できる職業人をを目指す。

【講義概要】

現場に必要な一般知識と近年の現場事情を理解していく。教科書にはない実際に講師自身が経験したノウハウを教わり機材知識や行動力、そして人間力を高める。

回	授業計画及び学習内容
1	担当講師の現在までのプロセスを知る
2	音の正相と逆相
3	メディアの構成や現状①
4	メディアの構成や現状②
5	舞台スタッフの仕事やしぐみ①
6	舞台スタッフの仕事やしぐみ②
7	業界内の人間力について①
8	業界内の人間力について②
9	S/N比 録音機材の進歩①
10	S/N比 録音機材の進歩②
11	スピーカの仕組み①
12	スピーカの仕組み②
13	ライブレコーディング 録音の規模と音楽の種類
14	基本的な注意事項
15	ホールと中継車、楽屋や舞台袖での設置について①
16	ホールと中継車、楽屋や舞台袖での設置について②
17	前期面談
18	前期講評
19	業界の職種理解について①
20	業界の職種理解について②
21	音響制作とは
22	フリーランスと会社所属との違い
23	業界で求められる人物像
24	オーケストラ録音について 管楽器と打楽器①
25	オーケストラ録音について 管楽器と打楽器②
26	録音機について ケーブルの種類や特徴
27	録音機について 機材の種類や特徴
28	サラウンド制作手法
29	様々なサラウンド方式
30	サラウンド収録方法の実際
31	次世代のメディアの可能性
32	3Dオーディオ
33	音場再現技術とその応用例
34	現場トピックス
35	後期面談
36	後期講評

【成績評価方法】

出席率80%以上 授業の参加意欲から50点 面談から50点の100点満点の成績評価
S90～100点 A80～89 B70～79点 C60～69点 D59点以下は不合格

【授業の特徴・形式と教員紹介】

講師の経験を元に座学形式を基本にしたディスカッション授業。オーケストラの録音からMA、PAと幅広く業務をこなす講師なので、他分野を学ぶことができます。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	音響芸術科 大学コース	2019年度	1年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般教養	ビジネススキル I	武田 純	2単位 36時間

【授業の到達目標及びテーマ】

社会人基礎力基礎

【講義概要】

社会人としてのルールや学校生活を送る中でのルールを座学方式で学ぶ

回	授業計画及び学習内容
1	入学オリエンテーション1
2	入学オリエンテーション2、みどりの村オリエンテーション
3	目的目標設定について
4	インターナショナルウィークについて
5	思いやりと気遣い
6	TAによるイングリッシュ講座①
7	TAによるイングリッシュ講座②
8	一般常識試験
9	一般常識試験の講評
10	チームビルディング①
11	チームビルディング②
12	メールの打ち方 電話応対
13	メールの打ち方 電話応対
14	一般常識試験
15	一般常識試験講評
16	TECHNOS祭学科テーマ決め
17	TECHNOS祭学科企画・模擬店準備
18	TECHNOS祭学科企画・模擬店準備
19	TECHNOS祭学科企画・模擬店準備
20	TECHNOS祭学科企画・模擬店準備
21	TECHNOS祭学科企画・模擬店準備
22	TECHNOS祭学科企画・模擬店準備
23	業界適正検査
24	職業研究
25	求人票の見方
26	履歴書の書き方
27	業界一般常識試験
28	業界一般常識試験講評
29	ビジネスマナー
30	ビジネスマナー
31	ビジネスマナー
32	TECHNOS展参考出品準備
33	TECHNOS展参考出品準備
34	TECHNOS展参考出品準備
35	TECHNOS展参考出品準備
36	1年間の講評

【成績評価方法】

出席率 80%以上

取り組み姿勢

S90～100点 A80～89 B70～79点 C60～69点 D59点以下は不合格

【授業の特徴・形式と教員紹介】

株式会社ヴィ・ビジョンスタジオにてポストプロダクション業務に携わる。その後イベントのライブレコーディングやPAに携わり今に至る。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	音響芸術科 大学コース	2019年度	2年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門応用	デジタルツール	藤田 倫子	2単位 72時間

【授業の到達目標及びテーマ】

音響分野におけるデジタルについて幅広く学び、理解を深めてもらう。

【講義概要】

座学ではなく、実際にPCを使った授業のほかに実習室ではセッティングや機材操作等、言葉だけではなく個々のスキルアップのために実践的に授業を行う。

回	授業計画及び学習内容
1	Protools プラグイン①
2	Protools プラグイン②
3	Protools プラグイン③
4	Protools プラグイン④
5	アウトボードの使い方①
6	アウトボードの使い方②
7	アウトボードの使い方③
8	スプリッターについて①
9	スプリッターについて②
10	ネットワークについて MADI①
11	ネットワークについて MADI②
12	MADIを使ったオーディオインターフェースの流れ①
13	MADIを使ったオーディオインターフェースの流れ②
14	Protools ショートカットキー応用編①
15	Protools ショートカットキー応用編②
16	前期実技試験①
17	前期実技試験②
18	講評
19	マイクの聴き比べ①
20	マイクの聴き比べ②
21	バンドセットマルチトラックについて①
22	バンドセットマルチトラックについて②
23	オーケストラ録音の3点吊り①
24	オーケストラ録音の3点吊り②
25	Protoolsにてマルチトラックミックス①
26	Protoolsにてマルチトラックミックス②
27	中間課題
28	講評
29	マスタリングについて①
30	マスタリングについて②
31	マニピレーターとプロンブタ①
32	マニピレーターとプロンブタ②
33	マニピレーターとプロンブタ③
34	後期課題
35	レビュー
36	講評

【成績評価方法】

出席率80%以上、100点満点の実習評価として授業の参加意欲から50点、定期試験から50点の成績評価を行う

S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格

【授業の特徴・形式と教員紹介】

現役レコーディングエンジニアによる実践的な指導。
自身の経験をもとに授業を展開して行く。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	音響芸術科 大学コース	2019年度	2年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門応用	企業現場研修	天野 龍洋	3単位 108時間

【授業の到達目標及びテーマ】

本物の職業人になる前に知っておくべきルールやマナーを理解し、一般知識から応用までを学ぶ。

【講義概要】

現場に必要なルールやマナーを講義形式で学ぶ。教科書にはない実際に講師自身が経験したノウハウを教わり機材知識や行動力、そして人間力を高める。

回	授業計画及び学習内容
1	スタジオのルール①
2	スタジオのルール②
3	エンジニアになるために①
4	エンジニアになるために②
5	エンジニアになるために③
6	アシスタントエンジニアの仕事①
7	アシスタントエンジニアの仕事②
8	アシスタントエンジニアの仕事③
9	マスタリングエンジニアの仕事①
10	マスタリングエンジニアの仕事②
11	録音スタジオの特徴①
12	録音スタジオの特徴②
13	録音スタジオの特徴③
14	音響制作と音響監督の仕事①
15	音響制作と音響監督の仕事②
16	音響制作と音響監督の仕事③
17	前期試験
18	前期まとめ・講評
19	アーティストとのコミュニケーションを上手にとるコツ①
20	アーティストとのコミュニケーションを上手にとるコツ②
21	スタジオでよく使われる機材(ミキサー)①
22	スタジオでよく使われる機材(ミキサー)②
23	スタジオでよく使われる機材(マイク)①
24	スタジオでよく使われる機材(マイク)②
25	スタジオでよく使われる機材(マイク聴き比べ)③
26	スタジオでよく使われる機材(マイク聴き比べ)④
27	アフレコのミックスの仕方①
28	アフレコのミックスの仕方②
29	アフレコのミックスの仕方③
30	映画・吹き替えのミックスの仕方①
31	映画・吹き替えのミックスの仕方②
32	ドラマCDのミックスの仕方①
33	ドラマCDのミックスの仕方②
34	アフレコの台詞合わせとノイズの消し方①
35	後期試験
36	講評

【成績評価方法】

出席率80%以上、100点満点の評価として授業の参加意欲から50点、定期試験から50点の成績評価を行う

S90～100点 A80～89 B70～79点 C60～69点 D59点以下は不合格

【授業の特徴・形式と教員紹介】

都内の様々なレコーディングスタジオで現役で活躍されているエンジニアによる授業であり、今のスタジオではどの機材でどのようにレコーディングをしているかなど業界のホットな話を毎週致しますが、学生は非常に刺激ある授業となっております。

また、社会に出る前の心構えをしっかり自覚するよう指導しております。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	音響芸術科 大学コース	2019年度	2年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門応用	卒業制作	秋元 孝夫/宇田 紗弥香 山下 裕康/武田 純/浜田 春菜子	9単位 324時間

【授業の到達目標及びテーマ】

1年次に学んだ音響分野の基礎を生かし、前期・後期2作品を学生主体で作品をつくる。

【講義概要】

各グループに分かれて企画・制作・編集・納品までを行う。
他の学科へ、協力依頼をして共同制作も展開していきます。
また、作品をSNSで配信することによりクオリティの高い作品づくりを目指します。

回	授業計画及び学習内容
1	企画・ミーティング①
2	企画・ミーティング②
3	グループ分け・テーマ決め①
4	企画書制作①
5	機材操作のおさらい(レコーディング)①
6	機材操作のおさらい(ミックス)①
7	作品制作①
8	作品制作②
9	作品制作③
10	作品制作④
11	作品制作⑤
12	作品制作⑥
13	作品制作⑦
14	作品制作⑧
15	作品制作⑨
16	プレビュー
17	直し
18	講評
19	授業計画及び学習内容
20	企画・ミーティング①
21	企画・ミーティング②
22	グループ分け・テーマ決め①
23	企画書制作①
24	機材操作のおさらい(レコーディング)①
25	機材操作のおさらい(ミックス)①
26	作品制作①
27	作品制作②
28	作品制作③
29	作品制作④
30	作品制作⑤
31	作品制作⑥
32	作品制作⑦
33	作品制作⑧
34	作品制作⑨
35	プレビュー
36	講評

【成績評価方法】

100点満点の実習評価として、レポート50点 授業の参加意欲から50点の成績評価を行う
S90～100点 A80～89 B70～79点 C60～69点 D59点以下は不合格

【授業の特徴・形式と教員紹介】

学生主体の実習ではあるが技術面でさらにクオリティの高い作品に仕上げられるよう講師陣にはアドバイスをもらう。
撮影などで学外に出る際に、地域の方や企業の方への依頼書や問い合わせ電話等、社会のマナーも指導をして行く。株式会社ヴィ・ビジョンスタジオにてポストプロダクション業務に携わる。その後イベントのライブ

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	音響芸術科 大学コース	2019年度	2年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門応用	映像技術Ⅱ	亀田亮治	4単位 72時間

【授業の到達目標及びテーマ】

ポストプロダクション業界で役に立つ映像と音響の基礎を学び、進路の幅を広める。
デジタルだけでなく、アナログにおける根本的な理解を深める。

【講義概要】

一般社団法人日本ポストプロダクション協会発行のポストプロダクション技術マニュアルを参考に、機材の操作技術はもちろん、映像・音声信号の基礎や最新のワークフローなど処理技術の基礎から応用までを養う。
一般社団法人日本ポストプロダクション協会のJPPA映像音響処理技術者認定試験にも対応した授業である。

回	授業計画及び学習内容
1	MAシステムについて
2	DAWによるMA作業①
3	DAWによるMA作業②
4	デジタル信号
5	音声ファイル
6	MAについて(ミキシングコンソール)①
7	MAについて(ミキシングコンソール)②
8	MAについて(ミキシングコンソール)③
9	MAについて(周辺機器)①
10	MAについて(周辺機器)②
11	MAについて(マイクロフォン)①
12	MAについて(マイクロフォン)②
13	MAについて(DAW)
14	MAについて(音の遅延)
15	MAについて(映像の遅延)
16	MAについて(アニメと映画のMA)
17	前期定期試験
18	前期講評
19	MAについて(デジタルミキシングコンソール)
20	MAについて(デジタルシステムのMAにおける注意点)
21	MAについて(デジタル機器による基準レベル)
22	MAについて(ラウドネスメーター)
23	MAについて(ネットワークオーディオ)
24	MAについて(エフェクト)
25	MAについて(デジタルシステムの同期)
26	MAについて(メーター)
27	Goproを使った映像の制作・講評
28	携帯電話を使った映像の制作・講評
29	カメラのレンズについて①
30	カメラのレンズについて②
31	ドルビーとは
32	サラウンドシステム5.1chサラウンドのMA
33	後期総合課題制作
34	後期総合課題制作
35	課題プレビュー
36	講評

【成績評価方法】

出席率80%以上、100点満点の評価として授業の参加意欲から50点、定期試験から50点の成績評価を行う

S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格

【授業の特徴・形式と教員紹介】

資料だけでなく、技術者側からの観点で作品鑑賞をし解説をしてもらうことによりさらに理解が深まります。
今現在もポストプロダクション業界で活躍されている講師による授業であり、進化してゆく映像の技術や音響の技術を業界最前線の視点からお話をしてくれます。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	音響芸術科 大学コース	2019年度	2年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門応用	メディアコミュニケーションⅡ	亀田 亮治	4単位 72時間

【授業の到達目標及びテーマ】

時代の進化に沿ったツールを理解し学ぶ。

【講義概要】

日本ではあまり見ることの出来ないかなり音にこだわった作品である5.1chサラウンド方式の海外ドラマを1年間通して鑑賞し、エンジニアとしての視点から作品を見て、学生と講師がディスカッションを行う。

回	授業計画及び学習内容
1	授業概要説明
2	作品鑑賞・ディスカッション①
3	作品鑑賞・ディスカッション②
4	作品鑑賞・ディスカッション③
5	作品鑑賞・ディスカッション④
6	作品鑑賞・ディスカッション⑤
7	作品鑑賞・ディスカッション⑥
8	作品鑑賞・ディスカッション⑦
9	作品鑑賞・ディスカッション⑧
10	作品鑑賞・ディスカッション⑨
11	作品鑑賞・ディスカッション⑩
12	作品鑑賞・ディスカッション⑪
13	作品鑑賞・ディスカッション⑫
14	作品鑑賞・ディスカッション⑬
15	作品鑑賞・ディスカッション⑭
16	作品鑑賞・ディスカッション⑮
17	前期課題
18	講評
19	作品鑑賞・ディスカッション①
20	作品鑑賞・ディスカッション②
21	作品鑑賞・ディスカッション③
22	作品鑑賞・ディスカッション④
23	作品鑑賞・ディスカッション⑤
24	作品鑑賞・ディスカッション⑥
25	作品鑑賞・ディスカッション⑦
26	作品鑑賞・ディスカッション⑧
27	作品鑑賞・ディスカッション⑨
28	作品鑑賞・ディスカッション⑩
29	作品鑑賞・ディスカッション⑪
30	作品鑑賞・ディスカッション⑫
31	作品鑑賞・ディスカッション⑬
32	作品鑑賞・ディスカッション⑭
33	作品鑑賞・ディスカッション⑮
34	作品鑑賞・ディスカッション⑯
35	後期課題
36	講評

【成績評価方法】

レポート提出形式 レポート評価から50点、ディスカッションの中での主体性や創造力を50点評価とした100点満点形式

S90～100点 A80～89 B70～79点 C60～69点 D59点以下は不合格

【授業の特徴・形式と教員紹介】

作品を通し、他人と意見交換することにより創造力を身につけることが出来ます。

またひとつの作品に限らず、勉強になる作品は数多くあるのでドラマ以外にもバラエティーやドキュメンタリーを鑑賞します。

現在もエンジニアとして活躍しており、数多くの作品を見てきた豊富な知識のある講師が授業を担当。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	音響芸術科 大学コース	2019年度	2年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門応用	音楽制作論	長田 暁二	4単位 72時間

【授業の到達目標及びテーマ】

大衆音楽(フォーク、ロック、J-POP、歌謡曲、民謡)全般に至る常識を身につける。
ヒット曲を身につけるにはどんな人がどんな立場に関わりあっているかを理解させる。

【講義概要】

昭和以降の大衆音楽の歴史や、現代、未来への新しい音楽の分析。
これから音楽の世界で生きて行くうえで必要となる音楽の法律を理解させる。

回	授業計画及び学習内容
1	音楽界と芸能界の違い①
2	音楽界と芸能界の違い①
3	業界の仕組み・裏側
4	クラシック音楽
5	ポピュラー音楽
6	クラシック音楽とポピュラー音楽の違い①
7	クラシック音楽とポピュラー音楽の違い②
8	音楽制作者(ディレクター)
9	音楽制作者(プロデューサー)
10	音楽制作者(録音ミキサー)
11	間接制作者(権利音楽出版社)
12	間接制作者(マネージャー)
13	間接制作者(レコード会社のプロモーター)
14	有線放送とは
15	テレビが歌をどう変えたか①ピンクレディー
16	前期定期試験実施に向けた前期対策
17	前期定期試験
18	前期講評
19	カラオケ音楽とは
20	演歌とポップスの根本的違い
21	音楽著作権①
22	音楽著作権②
23	日本レコード大賞について①
24	日本レコード大賞について①
25	沖縄音楽の文化と歴史①
26	沖縄音楽の文化と歴史①
27	オーケストラの鑑賞・解説①
28	オーケストラの鑑賞・解説②
29	クリスマスソングの歴史①
30	クリスマスソングの歴史②
31	昭和初期時代の歌の歴史①
32	昭和初期時代の歌の歴史②
33	昭和初期時代の歌の歴史③
34	後期試験に向けた対策講座
35	後期定期試験
36	講評

【成績評価方法】

出席率80%以上、定期筆記試験100点満点のする60点以下は追試を行う
S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格

【授業の特徴・形式と教員紹介】

数々の新聞記事や自身が出版した書籍と楽譜を使用した授業。
有名なレコード会社にて企画、制作を担当し日本レコード大賞や日本動揺協会文化賞等数多くの有名な賞を受賞。メディアの発達と歌の変化についての研究では第一人者的存在である。現在ではレコードの制作はもちろん、文化講座への公演も行っている。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	音響芸術科 大学コース	2019年度	2年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
専門応用	デジタルオーディオⅡ	鈴木 君美	4単位 72時間

【授業の到達目標及びテーマ】

音響機器における最新のデジタル応用技術についての詳細を学ぶ。

【講義概要】

アナログとデジタル両方式の違いによるメリットとデメリットを正しく判断出来る能力を養う。
 二年次卒業制作実習の為に最新の技術機械の操作技能を習得させる。

回	授業計画及び学習内容
1	最新デジタル技術(マルチビット方式)
2	最新デジタル技術(1bit方式)
3	最新デジタル技術(アドバンスセグメント方式)
4	最新デジタル技術(ビット圧縮方式①)
5	最新デジタル技術(ビット圧縮方式②)
6	最新デジタル技術(HDDの歴史①)
7	最新デジタル技術(HDDの歴史②)
8	最新デジタル技術(メカニズム)
9	最新デジタル技術(信号処理)
10	最新デジタル技術(メディア開発)
11	デジタル技術の応用 音声編 (アナログからデジタル)
12	デジタル技術の応用 音声編 (ステレオからサラウンド)
13	デジタル技術の応用 音声編 (マルチ方式からコンパチブルへ)
14	デジタル技術の応用 映像編 (アナログからデジタルへ)
15	デジタル技術の応用 映像編 (FPD技術で大型化)
16	前期定期試験の対策講座
17	前期定期試験
18	講評
19	最新のHDD(磁性機の発達)
20	最新のHDD(メカニズムの発達)
21	最新のHDD(サーボ制御技術)
22	最新のHDD(HDDの正しい使用方法)
23	最新のHDD(将来性の技術各種)①
24	最新のHDD(将来性の技術各種)②
25	音声記録概論の歴史①
26	音声記録概論の歴史②
27	音声記録技術(アナログ技術)①
28	音声記録技術(アナログ技術)②
29	音声記録技術(デジタル技術)①
30	音声記録技術(デジタル技術)②
31	将来の記録技術と再生技術(FPDによる音質劣化)
32	将来の記録技術と再生技術(収録技術)
33	将来の記録技術と再生技術(再生技術)
34	後期定期試験の対策講座
35	後期定期試験
36	講評

【成績評価方法】

出席率80%以上、定期筆記試験100点満点のする60点以下は追試を行う
 S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格

【授業の特徴・形式と教員紹介】

ノートはたくさんの図を取り入れ、文章だけで理解するのではなく最新のデジタルの資料や論文を参考に進めている。
 長年、レコーディングエンジニアとしてご活躍されておりアナログ時代からデジタル時代まで幅広い知識がある方による講義であり実務経験を取り入れた授業である。

開講課程	開講学科・コース	開講年度	履修対象
芸術専門課程	音響芸術科 大学コース	2019年度	2年 通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般教養	ビジネススキルⅡ	武田 純	2単位 36時間

【授業の到達目標及びテーマ】

社会人基礎向上を目的とし、本物の職業人を目指す。

【講義概要】

就職活動のため履歴書の作成方法や面接対策
社会人として必要な知識と理解
TECHNOS祭の準備と作業
TECHNOS展の準備と作業

回	授業計画及び学習内容
1	前期オリエンテーション
2	2年生ですべきことの確認
3	就職についての流れ
4	一般常識試験
5	年金について
6	所得税について
7	保険や年末調整について
8	TAから学ぶビギナーズイングリッシュ
9	合同企業説明会に参加
10	業種や企業研究
11	ビジネスマナー①言葉遣い
12	ビジネスマナー②電話応対や名刺交換ロールプレイ
13	ビジネスマナー③立ち居振る舞い
14	夏季休暇中の課題確認
15	夏季休暇中の課題チェック
16	TECHNOS祭の企画会議
17	TECHNOS祭の学科企画準備 お客様のことを考えた音企画の準備
18	TECHNOS祭の学科企画準備 お客様のことを考えた音企画の準備
19	TECHNOS祭の学科企画準備 お客様のことを考えた音企画の準備
20	TECHNOS祭の学科企画準備 お客様のことを考えた音企画の準備
21	TECHNOS祭の学科企画準備 お客様のことを考えた音企画の準備
22	TECHNOS祭本番日
23	一般常識試験
24	観劇会
25	5年後10年後の自分について
26	卒業研究の目的と目標
27	卒業研究の企画会議
28	実施日の確認と実行までの流れについて※授業時間外に実施
29	TECHNOS展に向けた企画会議
30	TECHNOS展の展示方法について
31	TECHNOS展の装飾や使用機材の確認
32	TECHNOS展のパッケージについて
33	TECHNOS展へ向けた最終制作
34	TECHNOS展へ向けた最終制作
35	プレビュー会
36	2年間の講評

【成績評価方法】

出席率 80%以上

取り組み姿勢

S90～100点 A80～89 B70～79点 C60～69点 D59点以下は不合格

【授業の特徴・形式と教員紹介】

株式会社ヴィ・ビジョンスタジオにてポストプロダクション業務に携わる。その後イベントのライブレコーディングやPAに携わり今に至る。